

No004

移住地概要

移住地概要

平成10年3月

平成10年3月

JICA LIBRARY



J 1142506(3)

国際協力事業団

国際

100
234
24

LIBRARY

移住
JR
98-4



移住地概要

平成10年3月

国際協力事業団

は し が き

「移住地概要」は、中南米5ヶ国に展開する日本人の代表的な集団移住地について、その所在地、面積、設立経緯、社会環境、入植数、農業現況などを取りまとめ、また、移住先国別に、人口、国民所得などの基礎指標と日本人移住の歴史について概説を加えたものであり、移住者援護事業に携わる者にとって必要不可欠の執務参考資料として、改訂を重ねながら活用されてきたところです。

近年、各移住先国の経済、社会情勢は大きく変化し、またそれに伴って日本人移住地の状況も変化を来しております。

事業団としては、効果的・効率的な移住事業の実施のためには、従来より支援を行ってきた移住地の実情を、可能な限り正確に把握した上で事業の実施に当たっていく必要があります。そのため、今般、より詳細な情報を加え、「移住地概要」を移住地の現況をより一層反映した資料となるよう改訂を行うこととしました。

尚、今回の改訂に当たっては、事業団直営移住地と非直営移住地を区分して2年次計画にて作成することとし、1年次は事業団旧直営移住地を対象として取りまとめました。

又、各移住地における事業団の支援状況を新たな項目として追加すると共に、従来は各移住地毎にばらつきがあった項目を統一するなど、資料として利用しやすいように工夫を図りました。

今回改訂に当たって調査に御協力いただいた現地日系団体の皆様に感謝申し上げますと共に、本資料が、移住関係諸機関ならびに移住者・日系人支援に携わる方々の参考になれば幸いです。

平成10年3月

企 画 部 長



1142506(3)

目 次

移住地一覧表

ブラジル連邦共和国

移住先国別データ	4
ブラジルへの日本人移住の歴史	5
アマゾンへの日本人移住の歴史	7
ブラジル在留邦人及び日系人数統計	8
第2トメアス移住地	9
フンシャル移住地	15
サン・ロレンソ移住地	20
ジャカレイ移住地	23
グァタバラ移住地	27
ピニャール移住地	32
アウリベルデ移住地	37
バルゼア・アレグレ移住地	41
ブラジル日系人団体一覧	46

アルゼンティン共和国

移住先国別データ	60
アルゼンティンへの日本人移住の歴史	61
アルゼンティン在留邦人及び日系人数統計	62
ガルアペー移住地	63
アンデス移住地	68
エスペランサ移住地	73
アルマ・フエルテ移住地	76
ローマ・ベルデ移住地	79
マルコス・パス移住地	82
エル・パット移住地	85
セラージャ移住地	88
エル・チャニール移住地	91
ラ・プラタ移住地	94
グレウ移住地	98
第2エル・パット移住地	101
バラデーロ移住地	104
第2バラデーロ移住地	108
第2ラ・プラタ移住地	112
マグダレーナ移住地	115
アルゼンティン日系人団体一覧	118

パラグアイ共和国

移住先国別データ	126
パラグアイへの日本人移住の歴史	127
パラグアイ在留邦人及び日系人数統計	127
ラ・パス移住地	128
ピラボ移住地	134
イグアス移住地	141
ピラレタ移住地	147
パラグアイ日系人団体一覧	150

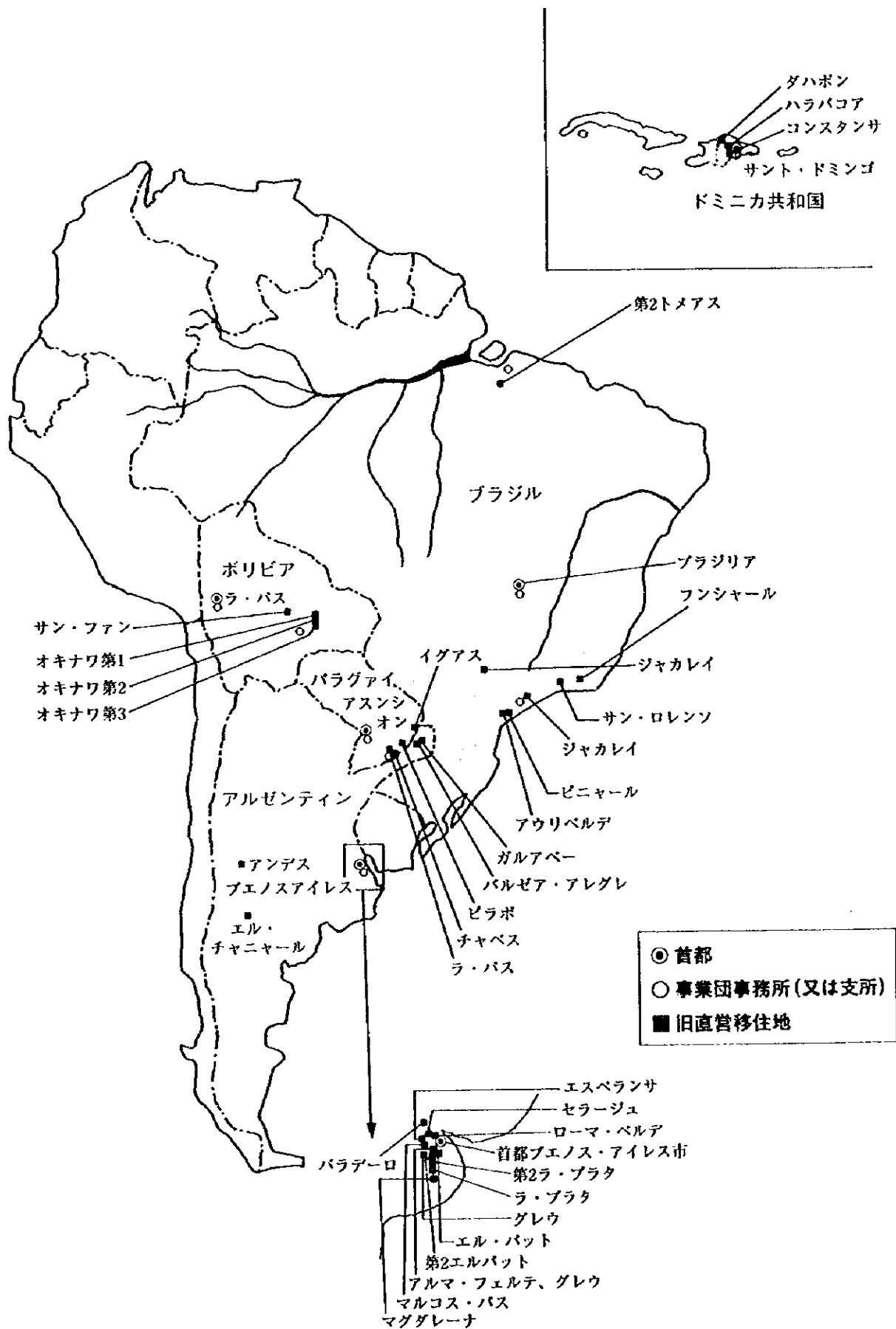
ボリヴィア共和国

移住先国別データ	158
ボリヴィアへの日本人移住の歴史	159
ボリヴィア在留邦人及び日系人数統計	160
サンファン移住地	161
オキナワ移住地	169
ボリヴィア日系人団体一覧	180

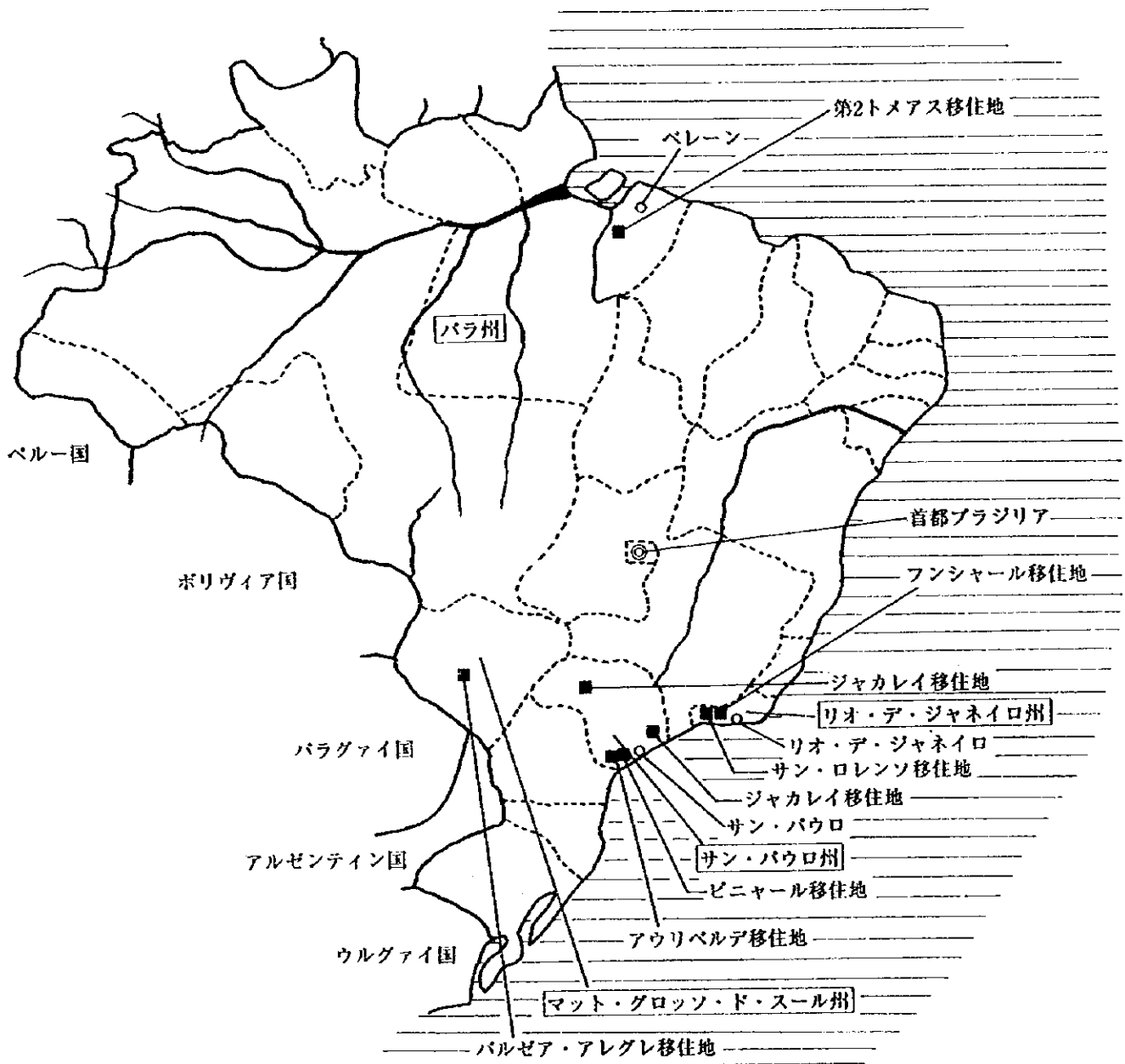
ドミニカ共和国

移住先国別データ	186
ドミニカへの日本人移住の歴史	187
ドミニカ在留邦人及び日系人数統計	188
ダハボン移住地	189
コンスタンサ移住地	192
ハラバコア移住地	196
ドミニカ日系人団体一覧	199

移住地一覧表



ブラジル連邦共和国



1. 移住先国別データ

(1) 基礎指標

正式国名	ブラジル連邦共和国
首都	ブラジリア
面積	8,512,000km ²
人口	161,790,000人 (95年国連)
独立年月日	1882年9月7日
政体	連邦共和国
宗教	カトリック (89%)
言語	ポルトガル語
民族・人種構成	白人系55%、褐色系39%、黒人系5%、東洋系1%

(2) 経済指標

年 度	1993	1994	1995
GNP (世銀・百万ドル)	471,978	536,309	N.A.
一人当たりGNP (世銀・ドル)	2,930	3,370	N.A.
GDP成長率 (国連・%)	4.4	5.7	3.9
インフレ率 (国連・%)	2,489.1	929.3	22.0
失業率 (国連・%)	5.4	5.1	4.6
対外債務残高 (IMF・百万ドル)	30,745	37,326	49,946
経常収支 (IMF・百万ドル)	20	▲1,153	▲18,136
通貨・交換レート (IMF・リアル)	0.118	0.846	0.973
輸出 (IMF・百万ドル)	38,783	43,623	46,605
輸入 (IMF・百万ドル)	28,186	33,079	49,498
商品別貿易実績 (94年 IMF・百万ドル)	(輸出) 機械50,055、鉄鋼製品3,732、輸送機械3,727、大豆3,296、 鉄鉱石2,294、コーヒー2,219 (輸入) 原材料13,719、資本財9,866、燃料・潤滑油4,351		

(出典：1997年度版中南米諸国便覧 (外務省中南米局監修) p.70～p.71. 社団法人ラテンアメリカ協会)

2. ブラジルへの日本人移住の歴史

日本人のブラジル移住は、ドイツ人（174年目）イタリア人（162年目）のそれに対し、90年目を迎えているが、およそ次の3期に分かれる。

（1）第1期（1908-23年）31,413人

日露戦争後の海外発展熱、農村の過剰人口と不況に加え、北米の移住制限が重なる一方、ブラジルでのイタリア移民の減少によって、コーヒー園労働者としての需要が高まり、サンパウロ州政府の渡航費一部補助によって始められた。

移住者の大半は出稼ぎ目的の農村出身者であり、コーヒーコロノとして始まり、次第に植民地建設もすすめられた。初期の主な移住地は次のとおり。

ピリグイ移住地（英伯植民地）	1913年設立
イグアッペ移住地（桂、レジストロ、セッテバーラスの総称）	1913年設立
半野移住地（カフェランジャ）	1915年設立
ブレジョン移住地（アルヴァレス・マッシュャード）	1917年設立
上塚移住地（プロミッソン）	1918年設立

（2）第2期（1924-41年）157,572人

大正末から昭和初期の日本国内の経済不況を反映する一方、日本政府の海外膨張政策により政府の渡航費全額補助が制度化され、この時期は、ブラジル移住の黄金期ともいえる。サンパウロ州奥地はもとより、1930年代には、パラナ州北部へも進出し、今日の基盤を築いた（昭和8-9年には、年間の移住者数は2万名をこえた）。海外興業K.K.、ブラジル拓殖会社、南米拓殖会社（パラ州）などによって、移住地建設もすすめられた。主な移住地は次のとおり。

アリアンサ移住地	(1924年設立)
野村農場	(1926年設立) バンデランテス
東山農場	(1927年設立) カンピーナス
バストス移住地	(1928年設立)
チエテ移住地	(1928年設立)
アカラ移住地（現トメアスー）	(1929年設立)
トレス・バーラス移住地	(1932年設立)

こうして各地に発展してきた移住者の産業基盤の安定的拡大を目指して、コチア産業組合（1927年）、南伯中央農産組合（1929年）、目的産業組合中央会（1934年）等が次々と創設された。

しかしながらバルガス大統領時代に、ブラジル総合政策（エスタード・ノーボ）が推進され、その一環として外国移民2分制限法（1934年）によって、日本人移住は年間2,849名に制限され、一方、14才未満の子弟への外国語教育禁止令（1938年）によって、子弟への日本語教育も禁止された。

1941年の第2次大戦によって移住は途絶し、まさに空白期（11年間）を迎えた。

この間移住者の大部分は第2次大戦終了後帰国を断念して永住を決意し、子弟の教育に力を入れ、大

学進学も激増した。

一方日本の敗戦に対し、勝ち組、負け組の紛争もあり、日系社会に暗い影をおとした。

(3) 第3期 (1952-93年) 53,657人

戦後廃虚と化した国土と、外地引揚及び復員約630万人を含む過剰人口を抱え、苦難期を迎えた日本も1952年サン・フランシスコ平和条約による国交回復によって、海外発展熱が高まった。

1952年8月、アマゾン移住5,000家族(辻小太郎枠)と、中部ブラジル移住4,000家族(松原安太郎枠)がブラジル政府により受入を許可され、1952年12月のアマゾン移住(54名)によって11年振りに移住が再開された。次いで、パウリスタ養蚕移民(1953年)、コチア青年移民(1955年)がすすめられた。

日本では、日本海外協会連合会(1954年)、日本海外移住振興株式会社(1955年)が設立され、それぞれ現地機関を設け、ブラジルの連邦・州の移住地への自営開拓農業移住また分益農及び雇用農業移住をすすめる一方、日本側の直営として次の移住地が創設された。

移住地名	創設年	面積
バルゼア・アレグレ移住地	1957年	36,363ha
グァタバラ	1958年	7,294ha
フンシャル	1959年	1,015ha
ジャカレイ	1959年	613ha
ピニャール	1962年	756ha
第2トメアスー	1962年	25,800ha
アウリ・ヴェルデ	1977年	418ha

ブラジルの工業化に伴い、1953年から、従来の農業移住(自営開拓農と雇用農方式)に加えて新たに工業技術移住が始められ3,000名以上が移住した。

1960年11月、日伯両政府間で移住協定が調印され、3年後に発効となった。

なお、1973年7月から移住者の渡航も従来の船による輸送から航空機へ切替えられた。

1970年代に入り日本国内の経済成長による国民の海外移住志向の低下並びにブラジルの国内経済、社会情勢も大いに成長、変化を来した。このような情勢の変化に伴い、ブラジル政府は、外国人移住者の受け入れについて選択政策強化に転換する態度をとり、1980年には新外国人法が制定される等移住者選別は強化される傾向にある。そして、その後ブラジル経済の悪化もあって、特に工業技術移住者のブラジルへの渡航は大きく減少した。

1981年9月30日事業団のブラジル2法人(ジャミック及びジェミス)は、ブラジル政府と協議合意の上撤収した。

3. アマゾン地域への日本人移住の歴史

アマゾン地域における日本人移住の歴史は1929年にはじまる。同年南米拓殖会社によって、アマゾン移住（現在の第1トメアスー）がはじめられ、1937年までに、352戸（2,104）が移住した。この時期にアマゾニア産業研究所（土塚司）引き受けの高拓生（国士館高等拓殖学校、後の日本高等拓殖学校）移住もすすめられた。この間におけるその活躍の跡は目覚ましく緑の魔境と呼ばれたこの辺境の開拓、開発に幾多の犠牲を払いつつ挺身した我が邦人の業績はブラジルで高く評価されるどころとなっている。この邦人の栄光はアマゾンにおける二つの産業によって代表される。その一つはアマゾニア産業研究所の引き受けによる高等拓殖学校卒業生を中心とした、アマゾン中流地帯のジュート（黄麻）であり、もう一つは南米拓殖会社を中心とした下流地域のトメアスーにおけるピメント・ド・レイノ（胡椒）である。いずれも苦難の道を歩み現在に至っている。このうち、ジュートは栽培の面ではすでに邦人の手から離れている。しかし依然としてアマゾン地域における大きな産業であることに変わりはない。一方、胡椒はアマゾン地域の邦人移住者約1,200戸、10,600人（1990年4月1日現在）の主要産物であって、今日それに対する依存度は高く、ほとんどの移住地が多かれ少なかれ胡椒栽培を営んでおり、しかもブラジル人による栽培も増加してきた。しかし、地域により胡椒の病害大発生のため、近年新しい営農形態として胡椒の他に蔬菜、スペイン・メロン及びハワイ・パイナップルがあり、かつこれが呼び水となって地元や近隣諸国産の熱帯作物（パッション・フルーツ、アセロラ、カカオ、ゴム）及び養鶏、養豚などが導入され普及しつつある。このように、アマゾン入植の日本人によって育てられた農産物は、今日アマゾンの中心産業としてアマゾン開発の一翼を担い且つ国際的産物としての評価も高い。このような姿こそ海外移住の意義を実地に発揮した生きた例証といえよう。

ブラジル在留邦人及び日系人数統計

州名	総数 (1+2)			1. 長期滞在者			2. 永住者			3. 日系人推定数(注1)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
アクレ	12	13	25	0	0	0	12	13	25			
アマゾナス	610	523	1,133	82	59	141	528	464	992			
アマバ	16	8	24	0	0	0	16	8	24			
アラゴアス	9	8	17	0	0	0	9	8	17			
エスピリット・サント	55	43	98	7	3	10	48	40	88			
ゴヤス	180	132	312	4	1	5	176	131	307			
サンパウロ	37,862	32,660	70,522	1,211	808	2,019	36,651	31,852	68,503			
サンタ・カタリーナ	223	196	419	3	1	4	220	195	415			
セアラ	44	39	83	6	4	10	38	35	73			
セルジッペ	2	2	4	0	0	0	2	2	4			
トカンチンス	32	16	48	0	0	0	32	16	48			
バイア	300	293	593	14	7	21	286	286	572			
バラ	1,149	1,095	2,244	48	29	77	1,101	1,066	2,167			
パライバ	18	15	33	0	0	0	18	15	33			
パラナ	2,321	2,593	4,914	116	60	176	2,205	2,533	4,738			
ピアウイ	7	5	12	0	0	0	7	5	12			
ブラジリア連邦区	417	364	781	50	51	101	367	313	680			
ベルナンブコ	142	127	269	20	11	31	122	116	238			
マツト・グロッソ	148	130	278	0	0	0	148	130	278			
マツト・グロッソ・ド・スール	1,283	1,117	2,400	7	7	14	1,276	1,110	2,386			
マラニョン	44	46	90	1	1	2	43	45	88			
ミナス・ジェライス	470	385	855	71	60	131	399	325	724			
リオ・グランデ・ド・スール	987	804	1,791	23	13	36	964	791	1,755			
リオ・グランデ・ド・ノルテ	26	22	48	0	1	1	26	21	47			
リオ・デ・ジャネイロ	974	932	1,906	182	148	330	792	784	1,576			
ロライマ	10	14	24	0	0	0	10	14	24			
ロンドニア	43	39	82	0	0	0	43	39	82			
総計	47,384	41,621	89,005	1,845	1,264	3,109	45,539	40,357	85,896			1,300,000

出典：平成9年版海外在留邦人数調査統計（平成8年10月1日現在）

（注1）日系人推定数は永住者+2世以降の日系人で、各種統計等より推定。（平成10年1月、外務省領事移住部）

第二トメアスー移住地

所在地	ブラジル国パラ州トメアス郡第二トメアスー 2ª Colônia, Tomé-Açu, Pará, Brasil	
面積	全移住地面積 25,800ha. 1区画平均 25ha.	
沿革	<p>1959年トメアスー産組は、同移住地入植30周年記念事業として後続移住者を受入れ、ピメンタの増産を図ることを目的とし、新たな移住地の創設を計画した。この事業は、その後旧移住振興会社が引継ぎ1960年11月15日にトメアスー移住地隣接パラ州有地30,800haの地権が交付され、その中の20,800haを直営移住地として設定、1962年1月移住振興トメアスー事業所が設立され8月までに零地点より5kmまでの直線路沿い両側に1耕地25町歩（間口250m、奥行き1km）の耕地割り境界線を開き26ロッテを造成した。同年9月入植予定者30名の中から25名の配耕を決定、第一陣の入植を開始した。翌年、日本より6家族と単身6人の直接入植者を皮切りに1982年まで、直接入植者58家族単身31名と現地入植者65家族単身20名の合計123家族と単身51名、入植地出生者を含め798名が定住、ピメンタ生産に従事したが、1970年代半ばよりのピメンタ病害の発生にともない、ピメンタ栽培ができる新天地を求めて脱耕者が相次ぎ現在、日系61家族（非居住者20家族を含む）と非日系7家族が残存し、脱耕者の耕地を引き受け、戸別所有耕地面積を拡張して、ピメンタ、カカオ、デンドロコ、熱帯果樹、牧場などの複合農業を営んでいる。</p>	
自然環境	地形	<p>標高は低く、海拔11～30m（平均20m）。概ね平坦であり、移住地内には大小数多くの河川が蛇行して流れている。主な河川としてアカラミリン河、その支流のクシュウ川、イピランガ河などが横断しているため、河に沿って傾斜の激しいところもある。</p>
	地質・土壌	<p>地質はテラ・フィルメに属し、第三紀の堆積物からなり、アマゾン本流のBASINに属する。そのため種々の土性や土色を有し、カリオン系粘土鉱物や石英砂からなっている。土壌はラトソロ・アマレーロ（黄色ラトソロ）を主体としており、他にラトソロ・コンクレミオナリオ、ラテリータ・ヒドルモルフィカ、ポドゾリコ・ベルメーリョ・アマレーロ、石英砂質土などが一部に分布する。ラテライト系の肥沃土中程度の土壌である。</p>
	植生・林相	<p>常緑熱帯降雨林におおわれ、多種多様な樹木が幾重にも重なり合って繁茂し、その樹高は30～50mに達する。また、その樹間に多くの寄生植物や蔓性植物をまじえて森林が構成されている。有用材に富み家具、建設用材として主なものをあげると下記の通り。</p> <p>パウアマレーロ、パウホーショ、パウサント、パウダルコ、アカプー、ピケヤ、ムイラブアマ、アンジュリン、アンジローバ、マサランルーバ、ジャラナ、ローロ、イペー、スクピーラ、クワルーバなど他多数。</p>

自然環境	気 候	赤道直下に近い熱帯気候帯にあるため、年中高温多湿であるが降雨の分布によって雨季（12月～5月）と乾季（6月～11月）とに分布される。雨季にはほとんど毎日、強い降雨があり、乾季には極端に雨量が減り暑い晴天が続く。そのため日中は著しく乾燥する。しかし気温の日較差（最高・最低の温度差）が大きいのと常時赤道東風が吹いているので、熱帯とはいえないのぎやすい所である。 絶対最高温度 37度、最高平均温度 32度50分、絶対最低温度 17度30分、 平均最低温度 22度、平均温度 26度90分
	最寄都市（1） （該当するもの■）	名称：トメアスー十字路市街地 距離：35km（うち未舗装34km） 交通手段：□鉄道■定期バス □不定期バス 所要時間：30分 人口：約1.5万人
社会環境	最寄都市（2） （該当するもの■）	名称：サンタイザベル市 距離：230km（うち未舗装210km） 交通手段：□鉄道■定期バス □不定期バス 所要時間：4時間30分 人口：
	大 都 市 （該当するもの■）	名称：ベレーン市 距離：270km（うち未舗装255km） 交通手段：□鉄道■定期バス □不定期バス 所要時間：6時間 人口：約125万人
	行政インフラ	役 所（トメアスー郡） 公証人役場（トメアスー郡） 警 察（トメアスー郡） 交 通 警 察（トメアスー郡） 郵便局（トメアスー郡） 電 話 局（トメアスー郡）
	社会インフラ （該当するもの■）	【公共施設】 ■公民館 □体育館 ■運動場 □その他（ ） 【教育】 □保育園 □幼稚園 ■小 □中 □高 ■日本語校 □その他（ ） 【日本語校】 教師数3人、生徒数22人、教室（□専用 ■共用 □個人宅） 教室数3室、学級（□単式 ■複式） 【保健・医療】 □保健所 □診療所 □病院 □薬局 □検査所 ・医 師：□常勤 □非常勤 ・看護婦：□常勤 □非常勤 ・その他（ ） 【警察】 ■派出所 □定期巡回 □不定期 □その都度

社 会 環 境	産業インフラ (該当するもの■)	[農業用水] <input type="checkbox"/> 公営灌漑用水 <input type="checkbox"/> 域内灌漑用水 ■河川水 ■地下水 <input type="checkbox"/> 溜池 <input type="checkbox"/> 天水
	生活インフラ (該当するもの■)	[移住地内幹線道路] <input type="checkbox"/> 舗装 <input type="checkbox"/> 一部舗装 ■砂利舗装 <input type="checkbox"/> 盛土道路 <input type="checkbox"/> その他() [電気] ■全戸電化 <input type="checkbox"/> 一部電化 <input type="checkbox"/> 自家発電 <input type="checkbox"/> なし [飲料水] <input type="checkbox"/> 水道 ■井戸水 <input type="checkbox"/> 雨水 <input type="checkbox"/> 市販水 (水質: ■飲用可 <input type="checkbox"/> 要煮沸 <input type="checkbox"/> 飲用不可) [電話] ■普通電話 ■携帯電話 <input type="checkbox"/> 公衆電話 <input type="checkbox"/> なし
入 植 者 状 況	入植者戸数	直接入植者戸数 34戸 (うち非居住者8戸) 現地入植者戸数 (日系人) 27戸 (うち非居住者12戸) (非日系人) 7戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者
	日系人入植者	農業専業 54戸 農業兼業 (加工業) 6戸、(修理業) 1戸
農 業 現 況	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積 (単位:ha)
	果 樹	クブアスー 11ha、 グラビオーラ 3 ha
	香 辛 料	胡椒 10 ha
	工 芸 作 物	カカオ 13 ha、 ゴム 9 ha、 デンデ 16 ha
	畜 産	1戸当たりの平均飼養成頭羽数 肉牛 455頭
そ の 他	林 業	アンジローバ 5 ha、 フレージョ 9 ha、 カスタニアドパラ 6 ha、 モギノ 7 ha
	主生産物販売 取扱機関	農業協同組合、親戚・友人・知人等個人、商社等仲買業者、生産農家自身 (卸売市場)
	金 融 機 関	農業協同組合、公営銀行、民間銀行
支 援 事 業	主な支援事業は12～13頁参照。その他に、移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。	

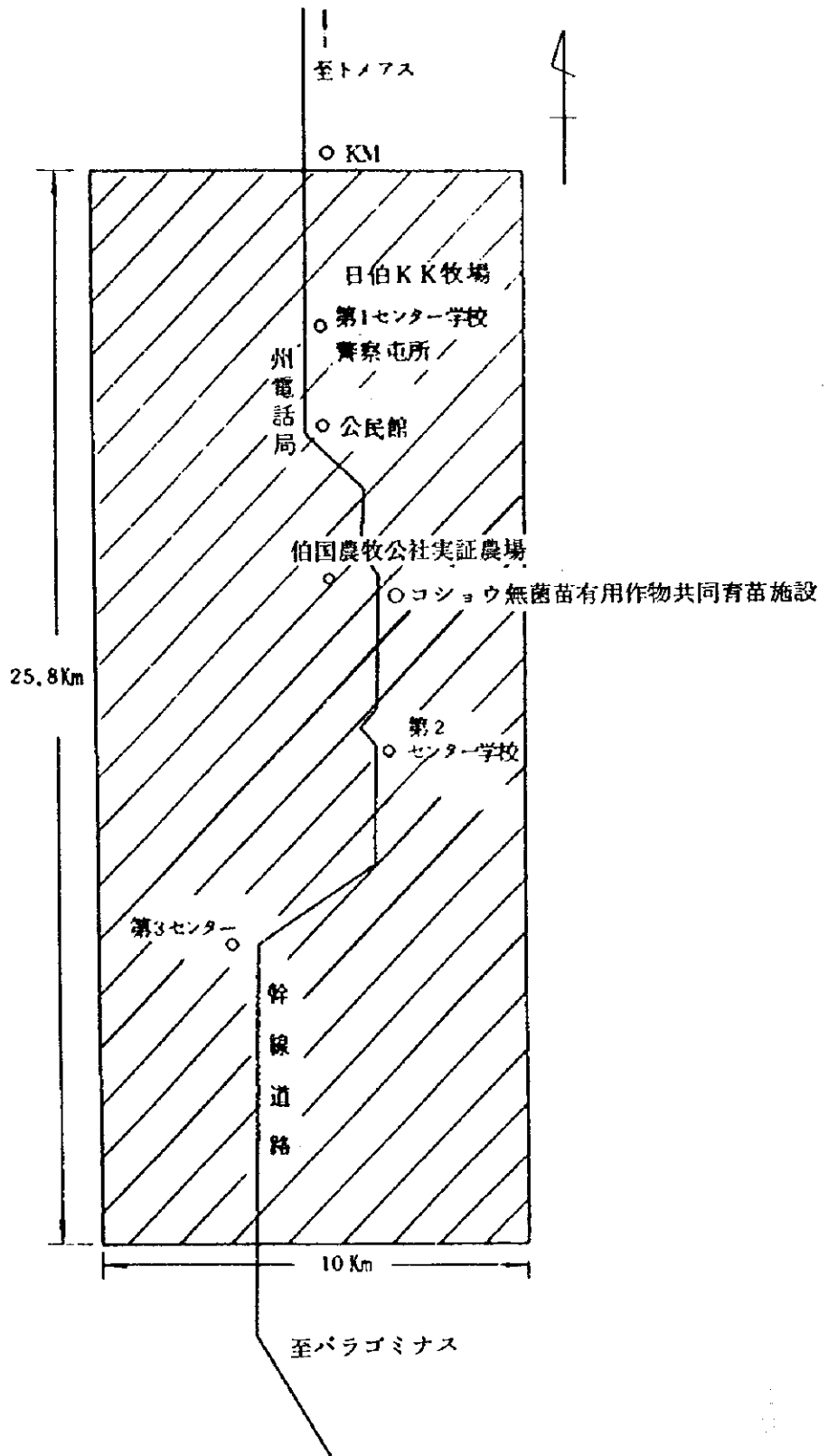
第2トメアス一移住地向け事業団支援事業

事業名	項目	事業年度	事業内容	助成率
農業基盤整備	試験農場	昭和41～49年	第2トメアス一農場*	
		昭和50～平成2年	アマゾンニア熱帯農業総合試験場*	
	本邦農業専門家派遣事業 営農改善特別対策事業	昭和49～平成5年	生産振興必要農機整備胡椒病害対策用機械(ブルドーザー等)*	購入貸与
		昭和50年	生産振興必要設備整備胡椒共同乾燥場*	2/3
		昭和58年	胡椒無病育苗機械、施設*	全額
		昭和58年	生産振興必要農機整備病虫害共同防除用機械(スピードスプレヤー)*	1/4
		昭和59年	生産技術特別対策 胡椒無病育苗*	全額
		昭和59年	生産振興必要設備整備 青果物運搬冷蔵庫1台、大型冷蔵庫1基*	2/3～全額
		昭和59～60年	生産振興必要設備整備 ジュース工場、関連機械(トラクター等)*	全額
		昭和60～62年	生産技術特別対策 胡椒無病育苗*	全額
平成5～7年	ジュース工場(設置設備)*	全額		
生活環境整備	営農指導業務委託	昭和60～平成9年	トメアス一農村振興協会(ASFATA)*	
		昭和44年	地区外道路補修工事	
	道路対策	昭和52～55年	第3トメアス一地区道路工事用機械	全額
		昭和56～57年	域内道路補修工事(移住地開放最終)	全額
		昭和58年	クシユウ河橋梁補修工事	全額
		昭和60～62年	域内道路補修工事*	全額
		昭和63年	道路工事用機械(ブルドーザー)*	全額
		平成4～8年	車輛・機械整備計画(6か年計画)*	全額
		平成元年	*	2/3
		昭和48、59年	公民館建設	2/3
	昭和53年	自治体会有林造林事業		

事業名	項目	事業年度	事業内容	助成率
生活環境整備	治安対策	昭和39年	治安事務所1棟	1/2
		昭和43年	治安事務所1棟 オートバイ1台	
		昭和44年	オートバイ1台	
		昭和45年	警報装置5基	
		昭和49年	警察屯所・宿舎1棟、オートバイ(更新)2台	
		昭和52年	オートバイ1台	
		昭和53年	オートバイ(更新)2台	
		昭和54年	オートバイ(更新)1台	
		昭和58年	有線電話	
		平成5年	車輛1台、無線機1基*	
医療衛生環境整備	診療施設・設備	昭和38～49年	診療所、宿舎2棟、機器、車輛2台	
		昭和50～59年	診療所増築、宿舎2棟、深井戸、機器、発電機1基、焼却炉	
教育環境整備	診療所運営助成	昭和56年	現地医師派遣、運営費・看護婦給与助成	
		昭和39～41年	小学校校舎1棟、教員宿舎1棟	
	移住地内教育施設・設備	昭和42～44年	小学校改築、教員宿舎2棟	
		昭和51年	スクールバス1台	
		昭和56年	小学校増築、教員宿舎2棟	
		平成7年	現地小学校(イビチンガ)校舎増築工事*	
移住シニア専門家、 日系社会シニア ボランティア (派遣年度)2名	日本語教育 医療衛生・福祉	平成5、8年		
		(2名)		
			(0名)	

*は第1トメアスー移住地に対する支援も含む。

移住地略図



フンシャル移住地

所在地	リオ・デ・ジャネイロ州カシオエイラス・デ・マカク郡 Município de Cachoeiras de Macacu, Estado do Rio de Janeiro	
面積	全移住地面積 1,015ha. 1区画 11.3ha	
沿革	そ菜、果樹等を中心とした都市近郊型の集約農業を行なう移住者を受け入れる移住地として、1959年事業団の前身である旧日本海外移住振興株式会社が購入した移住地である。入植は1960年から始まり、現在は27戸が入植定住している。	
自然環境	地形	平坦地と数十メートルの山地が混在し複雑な地形で、利用できる土地は概ね70%内外である。
	地質・土壌	土地は壤土ないし砂壤土。低地は粘土質あるいは場所によっては砂壤土で石が多い。
	植生・林相	大体、再生林、低地の部分に湿地性草木がある。
	気候	乾期5～10月、雨期11～4月であるがその区分は不明瞭。 年間平均気温23.6℃（最高28.8℃、最低19.8℃） 年間降雨量1,817mm
社会環境	最寄都市（1） （該当するもの■）	名称：カシオエイラ市 距離：15km（うち未舗装0km）交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：40分 人口：約3万人
	最寄都市（2） （該当するもの■）	名称：マチエ市 距離：50km（うち未舗装0km）交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：1時間0分 人口：約3万人
	大都市 （該当するもの■）	名称：リオ・デ・ジャネイロ市 距離：100km（うち未舗装0km）交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：1時間40分 人口：約600万人
	行政インフラ	役所（カシオエイラ市） 公証人役場（カシオエイラ市） 警察（カシオエイラ市） 交通警察（ホードピアリア・セテンタ） 郵便局（カシオエイラ市） 電話局（カシオエイラ市）

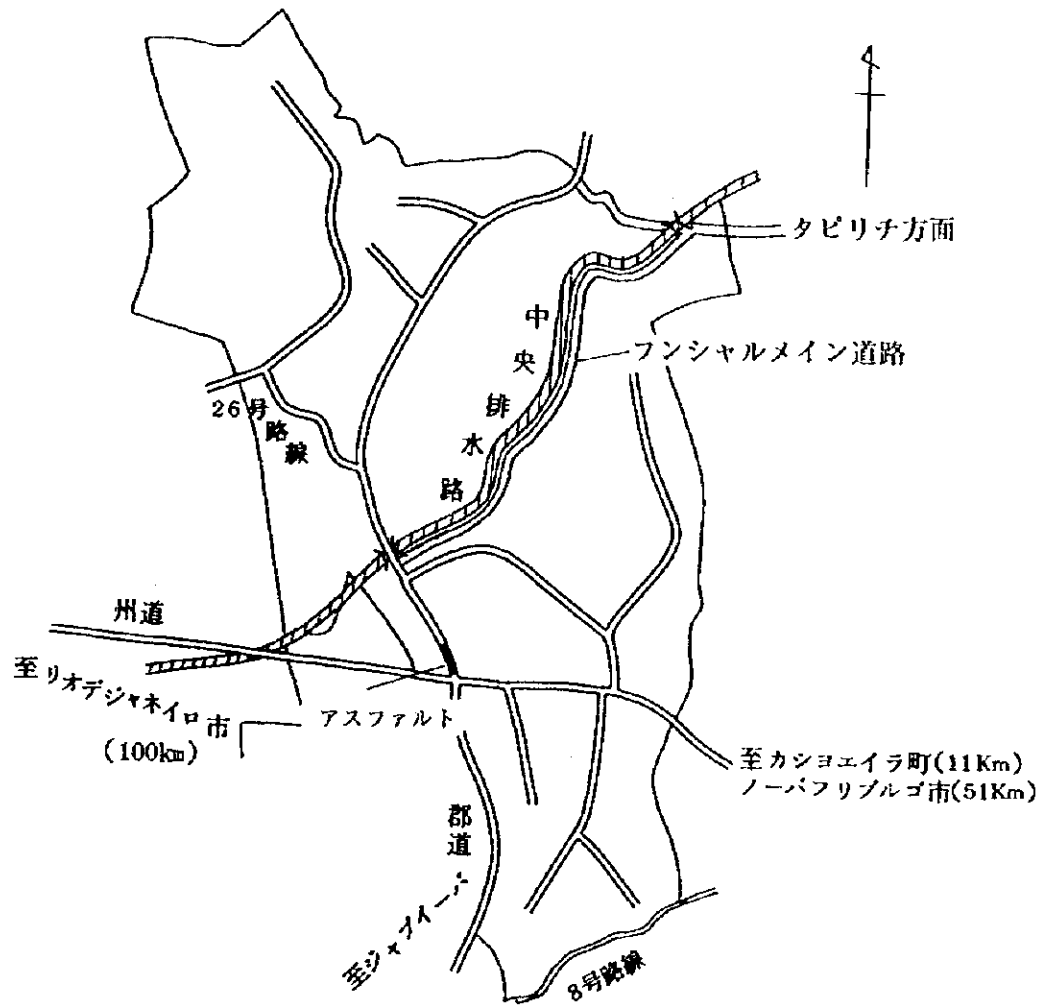
社 会 環 境	社会インフラ (該当するもの■)	<p>[公共施設] <input checked="" type="checkbox"/>公民館 <input type="checkbox"/>体育館 <input checked="" type="checkbox"/>運動場 <input checked="" type="checkbox"/>その他(青年会館)</p> <p>[教育] <input type="checkbox"/>保育園 <input type="checkbox"/>幼稚園 <input checked="" type="checkbox"/>小 <input type="checkbox"/>中 <input type="checkbox"/>高 <input checked="" type="checkbox"/>日本語校 <input type="checkbox"/>その他()</p> <p>[日本語校] 教師数1人、生徒数9人、教室(<input type="checkbox"/>専用 <input checked="" type="checkbox"/>共用 <input type="checkbox"/>個人宅) 教室数1室、学級(<input type="checkbox"/>単式 <input checked="" type="checkbox"/>複式)</p> <p>[保健・医療] <input type="checkbox"/>保健所 <input type="checkbox"/>診療所 <input type="checkbox"/>病院 <input type="checkbox"/>薬局 <input type="checkbox"/>検査所 ・医師：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・看護婦：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・その他()</p> <p>[警察] <input type="checkbox"/>派出所 <input checked="" type="checkbox"/>定期巡回 <input type="checkbox"/>不定期 <input type="checkbox"/>その都度</p>
	産業インフラ (該当するもの■)	<p>[農業用水] <input type="checkbox"/>公営灌漑用水 <input type="checkbox"/>域内灌漑用水 <input checked="" type="checkbox"/>河川水 <input checked="" type="checkbox"/>地下水 <input type="checkbox"/>溜池 <input type="checkbox"/>天水</p>
	生活インフラ (該当するもの■)	<p>[移住地内幹線道路] <input type="checkbox"/>舗装 <input checked="" type="checkbox"/>一部舗装 <input type="checkbox"/>砂利舗装 <input checked="" type="checkbox"/>盛土道路 <input type="checkbox"/>その他()</p> <p>[電気] <input checked="" type="checkbox"/>全戸電化 <input type="checkbox"/>一部電化 <input type="checkbox"/>自家発電 <input type="checkbox"/>なし</p> <p>[飲料水] <input type="checkbox"/>水道 <input checked="" type="checkbox"/>井戸水 <input type="checkbox"/>雨水 <input type="checkbox"/>市販水 (水質：<input checked="" type="checkbox"/>飲用可 <input type="checkbox"/>要煮沸 <input type="checkbox"/>飲用不可)</p> <p>[電話] <input checked="" type="checkbox"/>普通電話 <input type="checkbox"/>携帯電話 <input type="checkbox"/>公衆電話 <input type="checkbox"/>なし</p>
入 植 者 状 況	入植者戸数	直接入植者戸数 28戸(うち非居住者0戸) 現地入植者戸数 (日系人) 3戸(うち非居住者0戸) (非日系人) 10戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者
	日系人入植者	農業専業 28戸
農 業 現 況	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積(単位:ha)
	雑穀	その他の豆類
	果樹	パッション・フルーツ1ha、グアバ5ha
	蔬菜	トマト2ha、バージンナス1ha、キュウリ1ha

農業現況	花 卉	蘭 2 ha、観葉植物 0.1ha
	畜 産	1戸当たりの平均飼養成頭羽数 ウズラ 3000羽、養豚 200頭、肉牛 5頭、乳牛 5頭、養魚 2ha
その他	主生産物販売 取扱機関	農業協同組合、スーパー等小売業者、加工業者、商社等仲買業者、生産農家自身（卸売市場）、生産農家自身（小売）
	金 融 機 関	公営銀行、民間銀行
支援事業	主な支援事業は18頁参照。その他に、移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。	

フンシヤールル移住地向け事業団支援事業

事業名	項目	事業年度	事業内容	助成率
農業基盤整備	本邦農業専門家派遣事業	昭和50～59年		
	営農改善特別対策事業	昭和59年	産品開発必要設備整備 コヤーバ加工機械	全額
生活環境整備	道路対策	昭和38年	域内道路補修工事	全額
		昭和55年	域内道路補修工事(移住地開放最終工事)	全額
	電化対策	昭和43年		2/3
	公民館建設	昭和51年		2/3
	治安対策	平成2年	有線電話	1/2
医療衛生環境整備	診療所運営助成	昭和38～39年	本邦・現地医師派遣、運営費・看護婦給与助成	

移住地略図

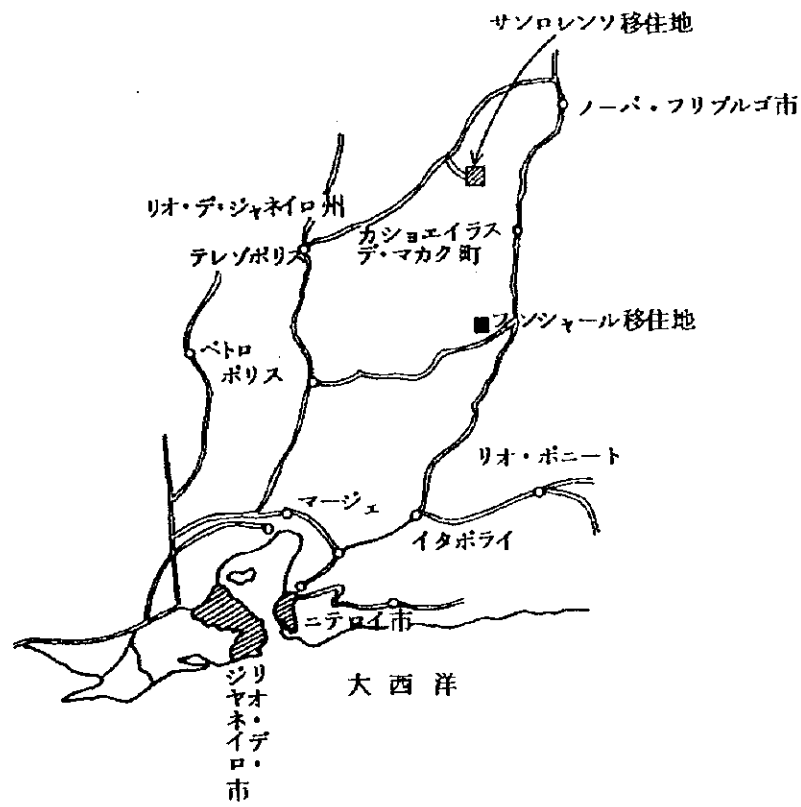


サン・ローレンソ小移住地

所在地	リオ・デ・ジャネイロ州ノーバ・フリブルゴ郡カンボ・コエーリオ、及びサン・ローレンソ Nova friburgo, RJ.	
面積	全移住地面積 168ha. 1区画 12 ~ 50ha. (27.9ha)	
沿革	雇用、借地、分益農の独立を目的として事業団によって設定されたブラジルで最初の小移住地である。1975年より入植が始まったが、現在は2戸が入植定住している。	
自然環境	地形	標高 1,100 ~ 1,200m。 海岸山脈の山腹に位置し、全体的には移住地入口より中心部までは平坦な地形をなし、先に進むに従い急勾配となる。前方に標高約 2,000m の山々を見える。
	地質・土壌	表土はやや黒色を呈し、かなりの有機質を含み肥沃である。
	植生・林相	平坦部は牧草原野、丘陵部は原生林。
	気候	気温 0℃ ~ 30℃、年間雨量約 1,500mm。高地であり、南緯 22° であってもかなり冷涼地である。近隣はリオ・デ・ジャネイロの避暑地として有名である。排水については平坦地は降雨により滞水することがある。
社会環境	最寄都市 (1) (該当するもの■)	名称：カンボ・ド・コエーリオ市 距離：27km (うち未舗装 10km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：1時間 人口：約 3千人
	最寄都市 (2) (該当するもの■)	名称：ノーヴァ・フリブルゴ市 距離：38km (うち未舗装 10km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：1時間 20分 人口：約 18万人
	大都市 (該当するもの■)	名称：リオ・デ・ジャネイロ市 距離：160km (うち未舗装 10km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：3時間 30分 人口：約 700万人
	行政インフラ	役所 (ノーヴァ・フリブルゴ市) 公証人役場 (カンボ・ド・コエーリオ市) 警察 (ノーヴァ・フリブルゴ市) 交通警察 (ノーヴァ・フリブルゴ市) 郵便局 (ノーヴァ・フリブルゴ市) 電話局 (ノーヴァ・フリブルゴ市)
	社会インフラ (該当するもの■)	[公共施設] <input type="checkbox"/> 公民館 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他

社 会 環 境	社会インフラ (該当するもの■)	<p>【教育】</p> <input type="checkbox"/> 保育園 <input type="checkbox"/> 幼稚園 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> その他() <p>【日語校】</p> 教師数0人、生徒数0人、教室(<input type="checkbox"/> 専用 <input type="checkbox"/> 共用 <input type="checkbox"/> 個人宅) 教室数0室、学級(<input type="checkbox"/> 単式 <input type="checkbox"/> 複式) <p>【保健・医療】</p> <input type="checkbox"/> 保健所 <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> 薬局 <input type="checkbox"/> 検査所 ・医師： <input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 ・看護婦： <input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 ・その他() <p>【警察】</p> <input type="checkbox"/> 派出所 <input type="checkbox"/> 定期巡回 <input type="checkbox"/> 不定期 <input type="checkbox"/> その都度
	産業インフラ (該当するもの■)	<p>【農業用水】</p> <input type="checkbox"/> 公営灌漑用水 <input type="checkbox"/> 域内灌漑用水 <input checked="" type="checkbox"/> 河川水 <input type="checkbox"/> 地下水 <input type="checkbox"/> 溜池 <input type="checkbox"/> 天水
入 植 者 状 況	生活インフラ (該当するもの■)	<p>【移住地内幹線道路】</p> <input type="checkbox"/> 舗装 <input type="checkbox"/> 一部舗装 <input type="checkbox"/> 砂利舗装 <input checked="" type="checkbox"/> 盛上道路 <input type="checkbox"/> その他() <p>【電気】</p> <input type="checkbox"/> 全戸電化 <input checked="" type="checkbox"/> 一部電化 <input type="checkbox"/> 自家発電 <input type="checkbox"/> なし <p>【飲料水】</p> <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 井戸水 <input type="checkbox"/> 雨水 <input type="checkbox"/> 市販水 <input checked="" type="checkbox"/> 湧水 (水質： <input checked="" type="checkbox"/> 飲用可 <input type="checkbox"/> 要煮沸 <input type="checkbox"/> 飲用不可) <p>【電話】</p> <input type="checkbox"/> 普通電話 <input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> 公衆電話 <input checked="" type="checkbox"/> なし
	入植者戸数	直接入植者戸数 1戸(うち非居住者0戸) 現地入植者戸数 (日系人) 4戸(うち非居住者3戸) (非日系人) 2戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者
農 業 現 況	日系人入植者	農業専業 1戸
	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積(単位:ha)
そ の 他	蔬 菜	トマト2ha、その他葉野菜1ha
	主生産物販売 取扱機関	商社等仲買業者
支 援 事 業	金 融 機 関	公営銀行、自己資金
	支 援 事 業	移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。

移住地略図



ジャカレイ移住地

所在地	サンパウロ州ジャカレイ郡 Colônia, Jacareí Município de Jacareí, Estado de São Paulo	
面積	全移住地面積 613ha. 1区画平均 6.2ha.	
沿革	そ菜、果樹、養鶏等を中心とした近郊農業を行なう移住者の受入地として、1959年に旧日本海外移住振興株式会社が取得・造成した移住地である。移住者の受入れは1960年から始まり、現在 32戸が入植定住している。	
自然環境	地形	北部及び南東部に 40～130m の丘陵がある。この丘陵に挟まれた中央部は盆地でパラティ河が貫流している。標高 530～570m。
	地質・土壌	丘陵地：花こう岩系、砂壤土および壤土 低地：沖積性埴壤土
	植生・林相	丘陵地は果樹園、低地はそ菜用地
	気候	年平均気温 19.5℃ 年間降雨量 1,215.9 mm 乾期 4～9月、雨期 10～3月、年により降霜あり
社会環境	最寄都市(1) (該当するもの■)	名称：ジャカレイ市 距離：14km (うち未舗装 1km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：30分 人口：約 25万人
	最寄都市(2) (該当するもの■)	名称：サン・ジョゼ・ドス・カンボス市 距離：33km (うち未舗装 1km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：1時間0分 人口：約 45万人
	大都市 (該当するもの■)	名称：サンパウロ市 距離：90km (うち未舗装 1km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：1時間40分 人口：約 1000万人
	行政インフラ	役所 (ジャカレイ市) 公証人役場 (ジャカレイ市) 警察 (ジャカレイ市) 交通警察 (サン・ジョゼ・ドス・カンボス) 郵便局 (ジャカレイ市) 電話局 (ジャカレイ市)

社 会 環 境	社会インフラ (該当するもの■)	<p>[公共施設] <input checked="" type="checkbox"/>公民館 <input type="checkbox"/>体育館 <input type="checkbox"/>運動場 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[教育] <input type="checkbox"/>保育園 <input checked="" type="checkbox"/>幼稚園 <input checked="" type="checkbox"/>小 <input checked="" type="checkbox"/>中 <input type="checkbox"/>高 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[日語校] 教師数 人、生徒数 人、教室 (<input type="checkbox"/>専用 <input type="checkbox"/>共用 <input type="checkbox"/>個人宅) 教室数 室、学級 (<input type="checkbox"/>単式 <input type="checkbox"/>複式)</p> <p>[保健・医療] <input type="checkbox"/>保健所 <input type="checkbox"/>診療所 <input type="checkbox"/>病院 <input type="checkbox"/>薬局 <input type="checkbox"/>検査所 ・医師：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・看護婦：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・その他 ()</p> <p>[警察] <input type="checkbox"/>派出所 <input type="checkbox"/>定期巡回 <input type="checkbox"/>不定期 <input checked="" type="checkbox"/>その都度</p>
	産業インフラ (該当するもの■)	<p>[農業用水] <input type="checkbox"/>公営灌漑用水 <input type="checkbox"/>域内灌漑用水 <input type="checkbox"/>河川水 <input type="checkbox"/>地下水 <input checked="" type="checkbox"/>溜池 <input checked="" type="checkbox"/>天水</p>
	生活インフラ (該当するもの■)	<p>[移住地内幹線道路] <input type="checkbox"/>舗装 <input type="checkbox"/>一部舗装 <input type="checkbox"/>砂利舗装 <input type="checkbox"/>盛土道路 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[電気] <input checked="" type="checkbox"/>全戸電化 <input type="checkbox"/>一部電化 <input type="checkbox"/>自家発電 <input type="checkbox"/>なし</p> <p>[飲料水] <input type="checkbox"/>水道 <input checked="" type="checkbox"/>井戸水 <input type="checkbox"/>雨水 <input type="checkbox"/>市販水 (水質：<input checked="" type="checkbox"/>飲用可 <input type="checkbox"/>要煮沸 <input type="checkbox"/>飲用不可)</p> <p>[電話] <input checked="" type="checkbox"/>普通電話 <input checked="" type="checkbox"/>携帯電話 <input type="checkbox"/>公衆電話 <input type="checkbox"/>なし</p>
入 植 者 状 況	入植者戸数	直接入植者戸数 12戸 (うち非居住者3戸) 現地入植者戸数 (日系人) 19戸 (うち非居住者 戸) (非日系人) 戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者
	日系人入植者	農業専業 11戸 農業兼業 (修理業) 1戸、(商業) 3戸、(被雇用者) 4戸
農 業 現 況	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積 (単位：ha)
	果 樹	柑橘 (オレンジ/みかん) 10ha、アボガド 0.5ha
	蔬 菜	メロン 0.5ha、その他葉野菜 1 ha、キュウリ 0.5ha、華人瓜 1 ha

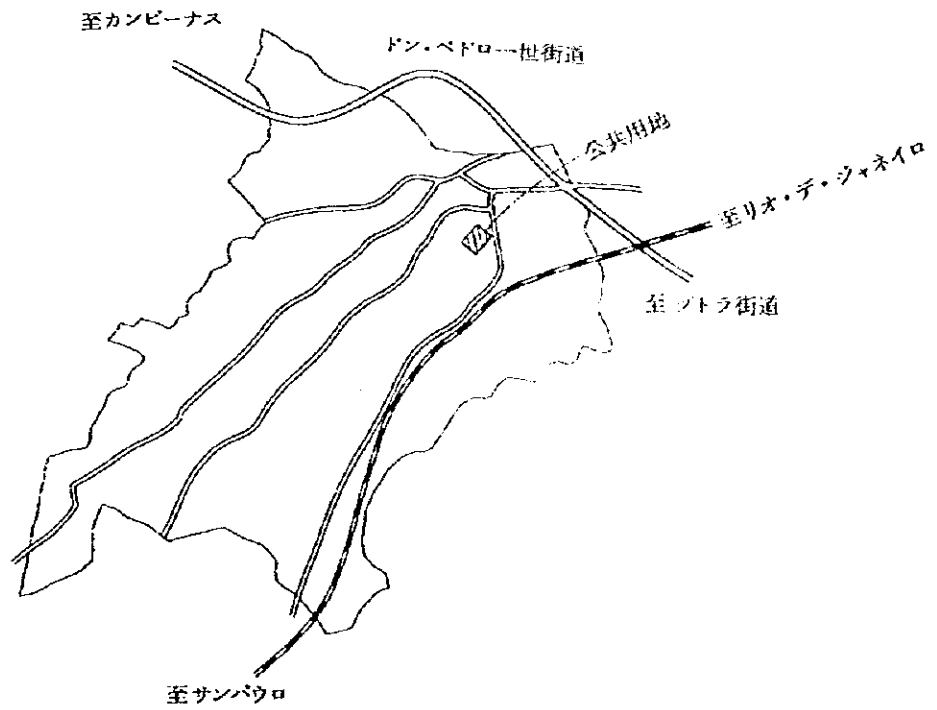
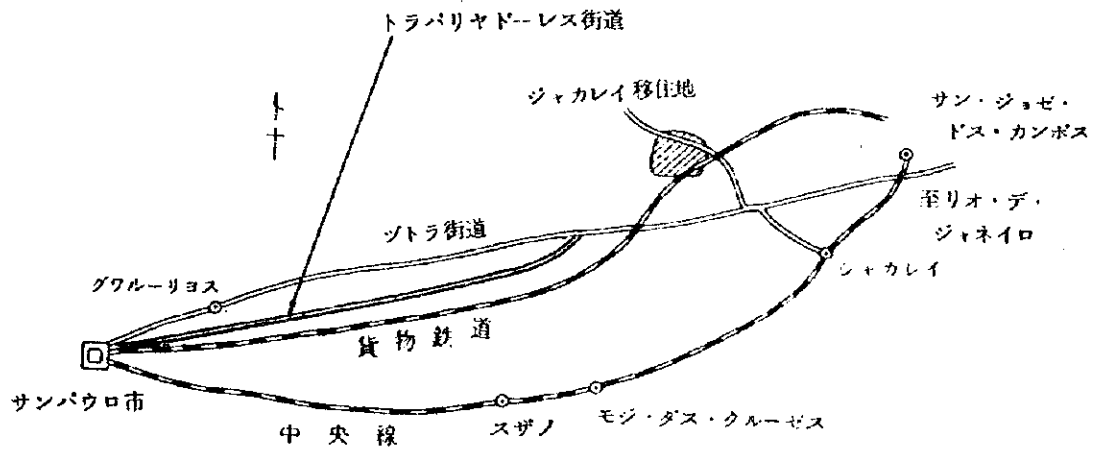
農業現況	花 卉	菊 1 ha、蘭 0.5ha、観葉植物 1 ha、百合 0.5ha、ダリア 0.5ha
	畜 産	1戸当たりの平均飼養成頭羽数 養鶏（鶏肉）20,000羽
その他	主生産物販売 取扱機関	加工業者、生産農家自身（卸売市場）、生産農家自身（小売）
	金 融 機 関	民間銀行

ジャカレイ移住地向け事業団支援事業

事業名	項 目	事業年度	事業内容	助成率
農業基盤整備	本邦農業専門家派遣事業	昭和50～59年		
生活環境整備	道路対策	昭和38年	域内道路補修工事	全額
		昭和55年	域内道路補修工事（移住地開放最終工事）	全額
	電化対策	昭和46年		1/2
	公民館建設	昭和56年		2/3
教育環境整備	移住地内教育施設・設備	昭和43年	教員宿舎1棟	
		昭和46年	小学校校舎1棟	

この他に、移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。

移住地略図



グアタパラ移住地

所在地	サンパウロ州グアタパラ郡 Núcleo Colonial Guatapara, Bairro Mombuca, Município Guatapara, Estado de São Paulo	
面積	全移住地面積 7,294ha. 1区画 1.5 ~ 6.0ha. 1戸平均所有面積約 25ha.	
沿革	<p>当初、全国拓殖農協連が山形、茨城、長野、岡山、山口、鳥根、佐賀の7県（各県拓連）から資金的協力を得、コチア産組と協約してグアタパラ耕地の一部を購入することとして、旧日本海外移住振興株式会社に代理取得を依頼した。その後、造成、分譲に関するすべての事業を移住振興会社が行うことになり、全拓連、コチア産組はそれぞれ日本国内と伯国内でのあっせんおよび指導、生産物の販売等で協力することとなった。移住は1961年から開始されたが、移住者は当初前記7県からあっせんされた。（後全国対象にあっせんが行われたが7県以外からの内地移住者はない）</p> <p>営農は低地を利用しての水田及びそ菜作と、丘地を利用しての柑橘、雑作栽培を予定したが、必ずしも順調に進展せず、現在では営農形態が変わり養鶏、養蚕、果樹の導入がはかられ、これらの組み合わせで進められてきた。入植定住者は115戸である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養蚕は1994年を最後に、現在養蚕農家はいない。 2. 砂糖キビの分益栽培が低地の75%、約3,000haある。 	
自然環境	地形	約60%が大波状形丘地、40%がモジグワス河沿いの低地である。 標高 480 ~ 510m
	地質・土壌	丘地は輝緑岩および砂岩の風化土壌より成る混合テラ・ロッシェ ph4 ~ 4.5。開拓時、耕作地は ph5.5 ~ 6.5。
	植生・林相	丘地：小灌木林または草地。現在はほとんど砂糖キビ畑。 低地：河に沿って原生林密生。現在は70%まで放牧地。
	気候	年平均気温 22.01℃（平均最高気温 27.53℃、平均最低気温 16.50℃） 年間降雨量 1,563 mm 雨期 10月 ~ 3月、乾期 4月 ~ 9月
社会環境	最寄都市（1） （該当するもの■）	名称：リベロン・ブレット市 距離：50km（うち未舗装 0km） 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道 ■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：50分 人口：約 50万人
	最寄都市（2） （該当するもの■）	名称：ピラ・グアタパラ 距離：12km（うち未舗装 0km） 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道 <input type="checkbox"/> 定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：15分 人口：約 0.5万人

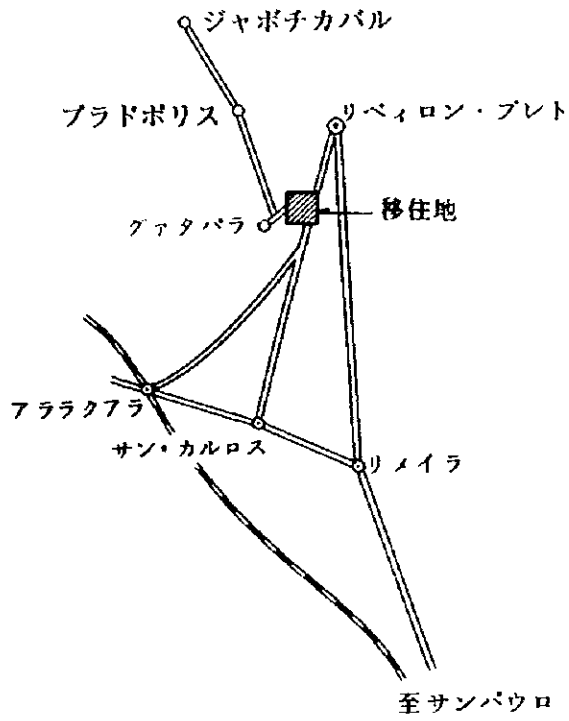
社 会 環 境	大 都 市 (該当するもの■)	名称：サンパウロ市 距離：300km (うち未舗装0km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：4時間 人口：約1200万人
	行政インフラ	役 所 (グアタバラ市) 公証人役場 (グアタバラ市) 警 察 (グアタバラ市) 交通警察 (リベロン・プレット市) 郵便局 (グアタバラ市) 電 話 局 (グアタバラ市)
	社会インフラ (該当するもの■)	[公共施設] ■公民館 <input type="checkbox"/> 体育館 ■運動場 <input type="checkbox"/> その他 () [教育] <input type="checkbox"/> 保育園 ■幼稚園 ■小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> その他 () [日語校] 教師数6人、生徒数102人、教室(■専用 <input type="checkbox"/> 共用 <input type="checkbox"/> 個人宅) 教室数6室、学級(■単式 <input type="checkbox"/> 複式) [保健・医療] ■保健所 <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> 薬局 <input type="checkbox"/> 検査所 ・医師： <input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 ・看護婦：■常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 ・その他 () [警察] <input type="checkbox"/> 派出所 <input type="checkbox"/> 定期巡回 <input type="checkbox"/> 不定期 ■その都度
	産業インフラ (該当するもの■)	[農業用水] <input type="checkbox"/> 公営灌漑用水 <input type="checkbox"/> 域内灌漑用水 ■河川水 <input type="checkbox"/> 地下水 <input type="checkbox"/> 溜池 <input type="checkbox"/> 天水
	生活インフラ (該当するもの■)	[移住地内幹線道路] ■舗装 <input type="checkbox"/> 一部舗装 <input type="checkbox"/> 砂利舗装 <input type="checkbox"/> 盛土道路 <input type="checkbox"/> その他() [電気] ■全戸電化 <input type="checkbox"/> 一部電化 <input type="checkbox"/> 自家発電 <input type="checkbox"/> なし [飲料水] ■水道 <input type="checkbox"/> 井戸水 <input type="checkbox"/> 雨水 <input type="checkbox"/> 市販水 (水質： ■飲用可 <input type="checkbox"/> 要煮沸 <input type="checkbox"/> 飲用不可) [電話] ■普通電話 ■携帯電話 ■公衆電話 <input type="checkbox"/> なし
入 植 者 状 況	入 植 者 戸 数	直接入植者戸数 84戸 (うち非居住者7戸) 現地入植者戸数 (日系人) 31戸 (うち非居住者2戸) (非日系人) 20戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者
	日 系 人 入 植 者	農業専業 45戸

入植者状況	日系人入植者	農業兼業：(加工業) 4戸、(修理業) 2戸、(商業) 4戸、サービス業4戸、 被雇用者2戸 商業：2戸
	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積(単位：ha)
農業現況	雑穀	稲(水稲、陸稲) 30ha、大豆30ha、とうもろこし10ha
	果樹	アボガド5 ha、レモン3 ha
	蔬菜	キュウリ1 ha、ニンニク3 ha
	花卉	蘭0.5 ha、観葉植物0.5ha
	畜産	1戸当たりの平均飼養成頭羽数 養鶏(鶏卵) 25,000羽、養鶏(鶏肉) 20,000羽、養豚300頭、肉牛150頭
その他	主生産物販売取扱機関	農業協同組合、商社等仲買業者、生産農家自身(卸売市場)
	金融機関	民間銀行
支援事業	主な支援事業は30頁参照。その他に、移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。	

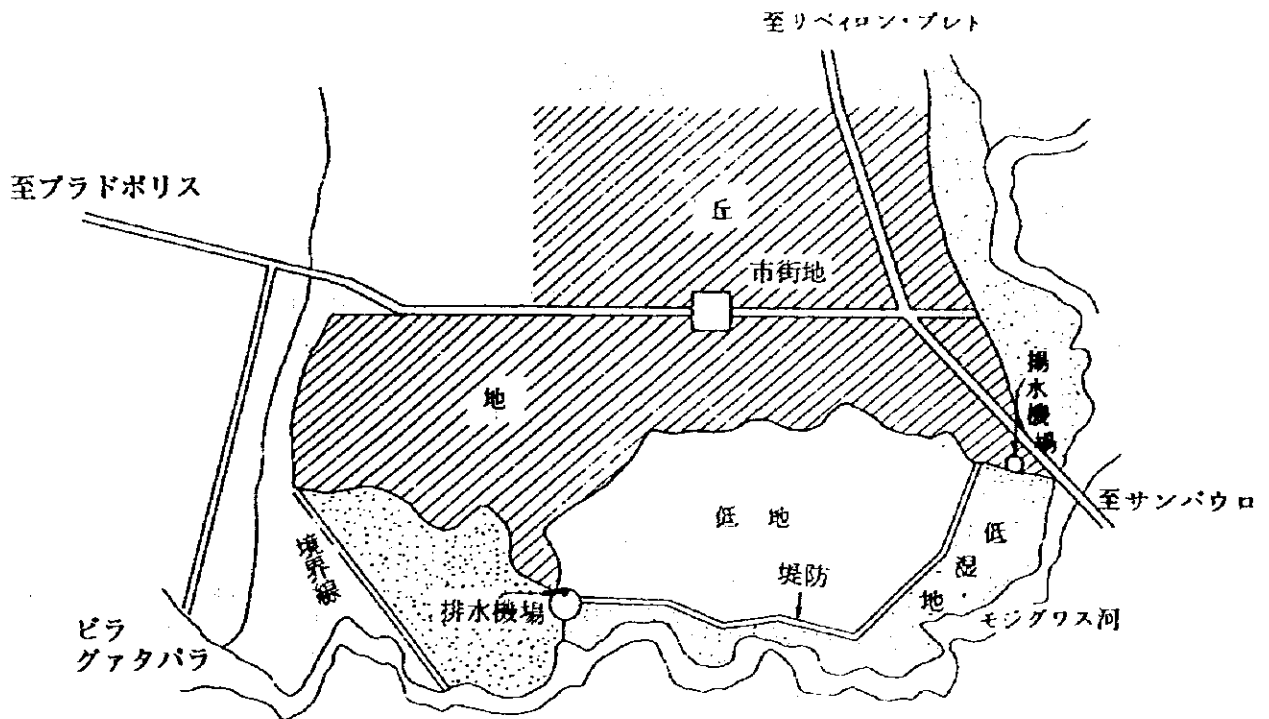
グアタパラ移住地向け事業団支援事業

事業名	項目	事業年度	事業内容	助成率	
農業基盤整備	本邦農業専門家派遣事業	昭和50～59年			
	営農改善特別対策事業	昭和44～47年	生産技術改善特別対策 低湿地域農業技術体系確立・防霜対策	全額 購入費与 全額 全額 2/3 2/3 全額	
		昭和48～49年	農地開発・整備促進 低湿地域整備用機械(ブルドーザー等)		
		昭和51～52年	農地開発・整備促進 低湿地域堤防補強工事		
		昭和55年	農業用水整備 深井戸掘削(1基)		
		昭和61～62年	農地開発・整備促進 隣接河川(モジグアス川)護岸工事		
		平成9年	農地開発・整備促進 隣接河川(モジグアス川)護岸工事		
	生活環境整備	道路対策	昭和59年	道路工事用機械(グレーダー、ブルドーザー)	全額
		電化対策	昭和44年		1/2
		飲料水対策	昭和57年	深井戸(1基)	2/3
公民館建設		昭和56年		2/3	
医療衛生環境整備	自治体会有林造林事業	昭和51年			
	治安対策	昭和48年	治安事務所1棟		
	診療施設・設備	昭和48年	診療所増築		
	診療所運営助成	昭和44～平成5年	本邦・現地医師派遣、運営費・看護婦給与助成		
	移住地内教育施設・設備	昭和39年	小学校校舎1棟		
教育環境整備 開発青年、 日系社会青年 ボランティア (派遣年度)1名	農林水産	畜産(平成3年)			
	医療衛生・福祉				
	教育・文化・その他				

移住地略図



移住地略図



ピニャール移住地

所在地	サンパウロ州サン・ミゲル・アルカンジョ郡 Município de São Miguel Arcanjo, Estado de São Paulo	
面積	全移住地面積 755ha, 1区画平均 12ha.	
沿革	<p>そ菜、果樹、養鶏等を中心とした近郊農業を行なう移住者の受入地として、1962年に旧日本海外移住振興株式会社が取得、造成した移住地である。この移住地の指導には事業団の依頼を受けて南伯産業組合中央会があたっていた。現在の入植戸数は53戸である。</p> <p>南伯組合解散後(1994年)、技術指導を行なう組織がなく、住民相互の技術交換による営農法を行なっている。幸いにして後継者に農大卒業者が数人いることは気強いことである。</p>	
自然環境	地形	緩波状形、丘陵部はやや平坦、その他は緩やかな傾斜(5~7°)。標高660~735m。小川数本あり。
	地質・土壌	頁岩を母材とする土壌で埴壤土が主体。丘陵部にテラ・ロッシャ系の土壌が部分的にある。
	植生・林相	40%が再生林、20%が灌木林、40%が畑地および放牧地。約70%を耕地として使用している。
	気候	年平均気温 18.1℃ 平均最高気温 26.9℃、平均最低気温 7.2℃ 年間降雨量 1,293 mm 雨期 12月~4月、乾期 5月~11月
社会環境	最寄都市(1) (該当するもの■)	<p>名称：ソロカバ市</p> <p>距離：70km(うち未舗装0km) 交通手段：<input type="checkbox"/>鉄道■定期バス <input type="checkbox"/>不定期バス 所要時間：1時間30分 人口：約65万人</p>
	最寄都市(2) (該当するもの■)	<p>名称：イタベチニンガ市</p> <p>距離：60km(うち未舗装0km) 交通手段：<input type="checkbox"/>鉄道■定期バス <input type="checkbox"/>不定期バス 所要時間：1時間0分 人口：約20万人</p>
	大都市 (該当するもの■)	<p>名称：サンパウロ市</p> <p>距離：150km(うち未舗装0km) 交通手段：<input type="checkbox"/>鉄道■定期バス <input type="checkbox"/>不定期バス 所要時間：3時間 人口：約1000万人</p>

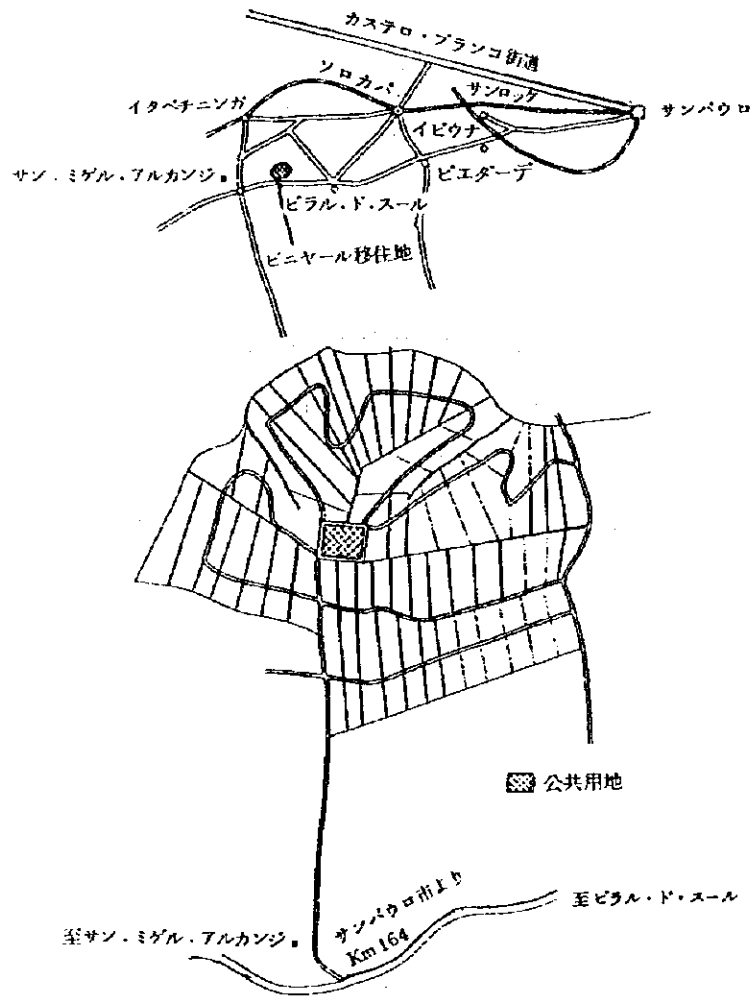
社 会 環 境	行政インフラ	役 所 (サンミゲール・アルカンジョ市) 公証人役場 (イタベチニンガ市) 警 察 (サンミゲール・アルカンジョ市) 交通警察 (イタベチニンガ市) 郵便局 (サンミゲール・アルカンジョ市) 電 話 局 (サンミゲール・アルカンジョ市)
	社会インフラ (該当するもの■)	[公共施設] ■公民館 □体育館 ■運動場 □その他 () [教育] □保育園 □幼稚園 ■小 ■中 □高 □その他 () [日語校] 教師数4人、生徒数55人、教室(■専用 □共用 □個人宅) 教室数3室、学級(■単式 □複式) [保健・医療] □保健所 □診療所 □病院 □薬局 □検査所 ・医 師: □常勤 □非常勤 ・看護婦: □常勤 □非常勤 ・その他 () [警察] □派出所 □定期巡回 □不定期 ■その都度
	産業インフラ (該当するもの■)	[農業用水] □公営灌漑用水 □域内灌漑用水 ■河川水 ■地下水 □溜池 □天水
	生活インフラ (該当するもの■)	[移住地内幹線道路] □舗装 ■一部舗装 □砂利舗装 ■盛土道路 □その他() [電気] ■全戸電化 □一部電化 □自家発電 □なし [飲料水] ■水道 □井戸水 □雨水 □市販水 (木質: ■飲用可 □要煮沸 □飲用不可) [電話] ■普通電話 □携帯電話 □公衆電話 □なし
入 植 者 状 況	入 植 者 戸 数	直接入植者戸数 4戸 (うち非居住者 戸) 現地入植者戸数 (日系人) 41戸 (うち非居住者2戸) (非日系人) 戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者
	日 系 人 入 植 者	農業専業 47戸
農 業 現 況	主 たる 農 業	1戸当たり耕作平均面積 (単位: ha)
	雑 穀	ブドウ3.57ha、柑橘 (オレンジ/みかん) 1.2ha、柿0.85ha、ピワ0.25ha

その他	主生産物販売 取扱機関	農業協同組合、商社等仲買業者
	金融機関	公営銀行、民間銀行
支援事業	<p>主な支援事業は35頁参照。その他に、移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。</p>	

ピニャール移住地向け事業団支援事業

事業名	項目	事業年度	事業内容	助成率
農業基盤整備 生活環境整備	本邦農業専門家派遣事業	昭和50～59年		
	道路対策	昭和54年	域内道路補修工事(移住地開放最終工事)	全額
	電化対策	昭和45年		1/2
教育環境整備	飲料水対策	平成5年	深井戸	2/3
	移住地内教育施設・設備	昭和38年 昭和43年 昭和53年	教員宿舎1棟 教員宿舎1棟 小学校校舎1棟	
	農林水産	(0名)		
開発青年、 日系社会青年 ボランティア (派遣年度) 1名	医療衛生・福祉	(0名)		
	教育・文化・その他	(1名)	日本語教師(平成6年)	
	日本語教育	(1名)		
移住シニア専門家 日系社会シニア ボランティア (派遣年度) 1名	医療衛生・福祉	(0名)		

移住地略図



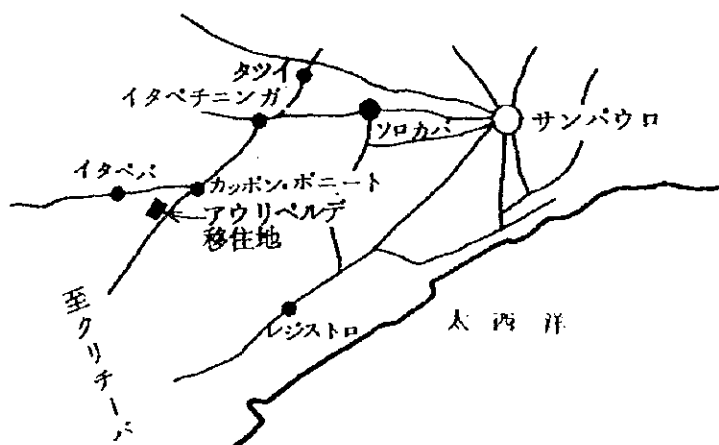
アウリベルデ移住地

所在地	サンパウロ州カッボン・ボニート郡 Núcleo Auriverde, Município de Capão Bonito, Estado de São Paulo	
面積	全移住地面積 418ha. 1 区画平均 15ha.	
沿革	青年既移住者独立用および本邦からの入植者を対象として、1977年に事業団が取得、造成した移住地である。入植者の受入れは 1978 年より始まり、現在 13 戸が入植定住している。	
自然環境	地形	南部が高く (標高 750m) 北部、西部に向かって約 50m の標高差がある。地区内に 3 本の小川が流れており波状形地が 3 所にわかれてある。
	地質・土壌	粘板岩系を母岩とする Latsol Vermelho Escuro と呼ばれる赤色植壤土
	植生・林相	20ha の再生林の他は牧野、畑地である。
	気候	年平均気温 20.1℃ 年間降雨量 1,453.2 mm 乾期 4～9 月、雨期 10～3 月
社会環境	最寄都市 (1) (該当するもの■)	名称: カッボン・ボニート市 距離: 9 km (うち未舗装 3km) 交通手段: <input type="checkbox"/> 鉄道 <input checked="" type="checkbox"/> 定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間: 時間 分 人口: 約 万人
	最寄都市 (2) (該当するもの■)	名称: グアアピアラ市 距離: 32km (うち未舗装 3km) 交通手段: <input type="checkbox"/> 鉄道 <input type="checkbox"/> 定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間: 時間 分 人口: 約 万人
	大都市 (該当するもの■)	名称: サンパウロ市 距離: 220km (うち未舗装 3km) 交通手段: <input type="checkbox"/> 鉄道 <input type="checkbox"/> 定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間: 3 時間 分 人口: 約 万人
	行政インフラ	役所 (カッボン・ボニート市) 公証人役場 (カッボン・ボニート市) 警察 (カッボン・ボニート市) 交通警察 (カッボン・ボニート市) 郵便局 (カッボン・ボニート市) 電話局 (カッボン・ボニート市)
	社会インフラ (該当するもの■)	[公共施設] <input type="checkbox"/> 公民館 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他 () [教育] <input type="checkbox"/> 保育園 <input type="checkbox"/> 幼稚園 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> その他 ()

社 会 環 境	社会インフラ (該当するもの■)	<p>[日本語校] 教師数 人、生徒数 人、教室 (□専用 □共用 □個人宅) 教室数 室、学級 (□単式 □複式)</p> <p>[保健・医療] □保健所 □診療所 □病院 □薬局 □検査所 ・医師: □常勤 □非常勤 ・看護婦: □常勤 □非常勤 ・その他 ()</p> <p>[警察] □派出所 □定期巡回 □不定期 □その都度</p>
	産業インフラ (該当するもの■)	<p>[農業用水] □公営灌漑用水 □域内灌漑用水 ■河川水 □地下水 □溜池 □天水</p>
	生活インフラ (該当するもの■)	<p>[移住地内幹線道路] □舗装 □一部舗装 ■砂利舗装 □盛土道路 □その他()</p> <p>[電気] ■全戸電化 □一部電化 □自家発電 □なし</p> <p>[水道] □水道 ■井戸水 □雨水 □市販水 (水質: ■飲用可 □要煮沸 □飲用不可)</p> <p>[電話] ■普通電話 ■携帯電話 □公衆電話 □なし</p>
入 植 者 状 況	入植者戸数	<p>直接入植者戸数 17戸 (うち非居住者7戸) 現地入植者戸数 (日系人) 3戸 (うち非居住者 戸) (非日系人) 戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者</p>
	日系人入植者	農業専業 20戸
農 業 現 況	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積 (単位: ha)
	雑穀	フェジヨン47.5ha、とうもろこし9.0ha
	果樹	ブドウ33.0ha、柑橘(オレンジ/みかん) 15.0ha、柿2.5ha、桃4.0ha、杏/スモモ4.5ha、ビワ2.5ha
	蔬菜	トマト2.0ha、チシャ/キャベツ1.5ha、キュウリ1.5ha、ニンジン1.0ha、さつまいも8.0ha、ジロ2.0ha、ピーマン7.5ha、玉ねぎ13.0ha、南瓜22.0ha

その他	主生産物販売 取扱機関	スーパー等小売業者、親戚・友人・知人等個人、商社等仲買業者、生産農 家自身（卸売市場）
	金融機関	公営銀行
支援 事業	移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、 生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業 などにより支援を実施してきた。	

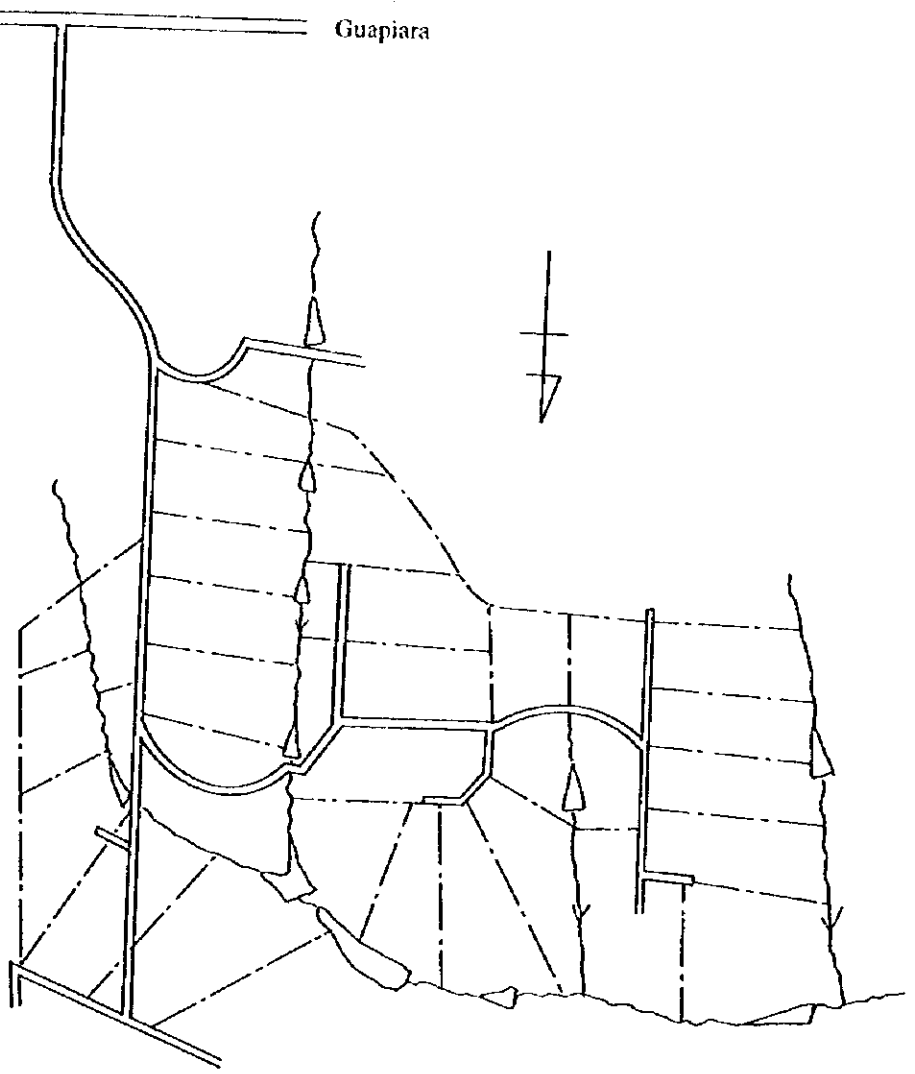
移住地略図



Capão Bonito

Guapiara

アウリベルデ移住地略図



バルゼア・アレグレ移住地

所在地	南マット・グロッソ州テレーノス郡 Fazenda Varzea Alegre, Município de Terenos, Estado de Mato Grosso do Sul	
面積	全移住地面積 36,363ha. 1区画平均 25ha.	
沿革	<p>1957年、邦人自営農受入地として旧日本海外移住振興株式会社が、購入造成した移住地である。入植は1959年から開始され山口県人が多い。</p> <p>当初はバナナおよび米を中心にした営農に従事したが思わしくなく、その後養鶏を導入した柑橘、アバカシ（パイナップル）などの果樹と組み合わせての経営は順調であり、また一部では牧畜も行われており、現在50戸が入植定住している。養鶏指導は毎月1回FATEC社（サンパウロ市）により行なわれている。</p>	
自然環境	地形	北部は平坦地、南部は緩傾斜丘陵地。 標高 250 ~ 310m。
	地質・土壌	主に砂壤土、砂質土、若干のテラ・ロシヤ、テラ・マサッペー地帯が斑点状に散在。
	植生・林相	いわゆるカンボセラード地帯である。原生林や再生林が散在するが有用材は乏しい。草生については1975年頃から豪州より導入された牧草がどんな砂質土にも草生が旺盛で、当地でも栽培され、今日では青々とした牧場になっている。
	気候	年平均気温 24.7℃ 平均最高気温 34.0℃、平均最低気温 10.0℃ 年間降雨量 1,313 mm 雨期 10 ~ 3月、乾期 4 ~ 9月、区別は明瞭。
社会環境	最寄都市（1） （該当するもの■）	<p>名称：テレーノス市</p> <p>距離：18km（うち未舗装0km） 交通手段：■鉄道■定期バス ■自家用車 所要時間：15分 人口：約1.5万人</p>
	最寄都市（2） （該当するもの■）	<p>名称：アキダワナ市</p> <p>距離：90km（うち未舗装0km） 交通手段：■鉄道■定期バス ■自家用車 所要時間：1時間 分 人口：約5万人</p>
	大都市 （該当するもの■）	<p>名称：カンボ・グランデ市</p> <p>距離：40km（うち未舗装 km） 交通手段：■鉄道■定期バス ■自家用車 所要時間： 時間 40分 人口：約8万人</p>

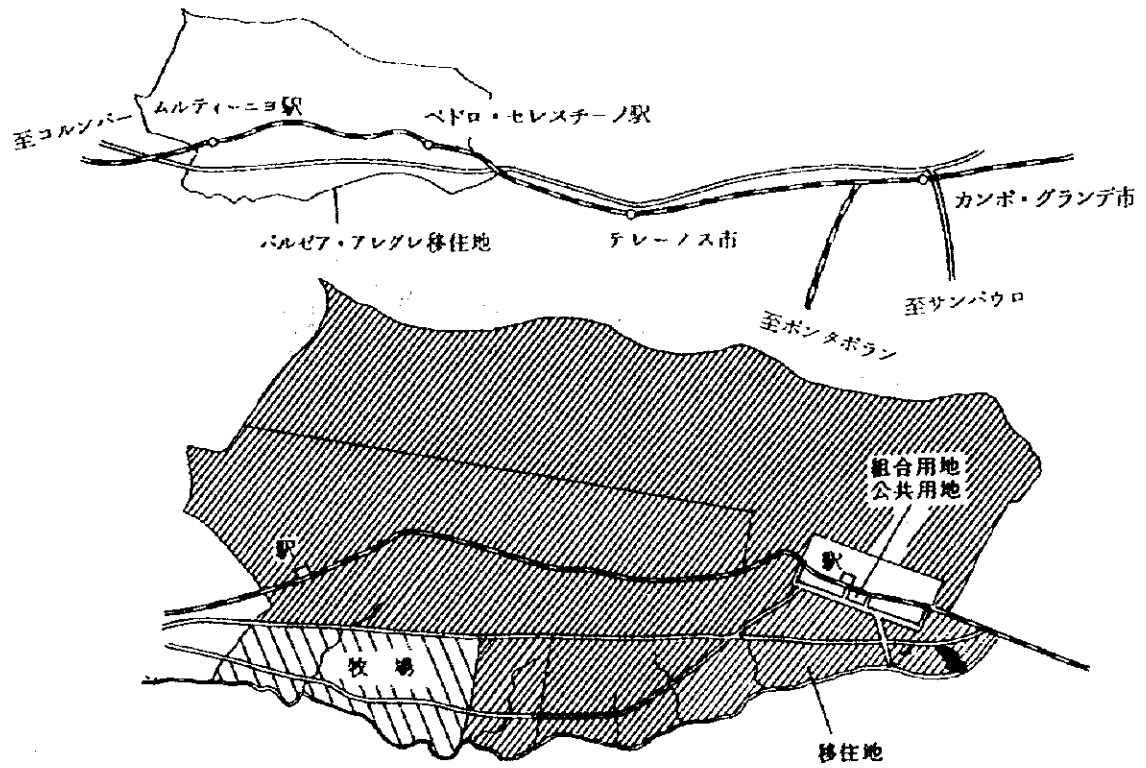
社 会 環 境	行政インフラ	役 所 (カンボ・グランデ市、テレノス市) 公証人役場 (カンボ・グランデ市、テレノス市) 警 察 (カンボ・グランデ市、テレノス市) 交通警察 (カンボ・グランデ市) 郵便局 (カンボ・グランデ市、テレノス市に支局) 電 話 局 (カンボ・グランデ市、テレノス市に支局)
	社会インフラ (該当するもの■)	[公共施設] ■公民館 □体育館 ■運動場 ■その他(野球場2、テニスコート2、ゲートボールコート2) [教育] □保育園 □幼稚園 ■小 □中 □高 □その他() [日語校] 教師:父兄の交代制、生徒数35人、教室(■専用 □共用 □個人宅) 教室数1室、学級(■単式 □複式) [保健・医療] □保健所 □診療所 □病院 □薬局 □検査所 ・医師:□常勤 □非常勤 ・看護婦:□常勤 □非常勤 ・その他() [警察] □派出所 □定期巡回 □不定期 ■その都度
	産業インフラ (該当するもの■)	[農業用水] □公営灌漑用水 □域内灌漑用水 ■河川水 ■地下水 □溜池 □天水
	生活インフラ (該当するもの■)	[移住地内幹線道路] □舗装 □一部舗装 ■砂利舗装 □盛土道路 □その他() [電気] ■全戸電化 □一部電化 □自家発電 □なし [飲料水] □水道 ■井戸水 □雨水 □市販水 (水質: ■飲用可 □要煮沸 □飲用不可) [電話] ■普通電話 ■携帯電話 □公衆電話 □なし
入 植 者 状 況	入植者戸数	直接入植者戸数 50戸 (うち非居住者7戸) 現地入植者戸数 (日本人) 16戸 (うち非居住者7戸) (非日本人) 20戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者
	日系人入植者	農業専業 48戸

入植者状況	日系人入植者	農業兼業：(ガソリンポスト) 1戸 商業：1戸
農業現況	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積 (単位：ha)
	雑穀	大豆 200ha
	果樹	柑橘 (オレンジ/みかん) 約 300ha、アセロラ 5 ha、パイナップル 20ha
	畜産	1戸当たりの平均飼養成頭羽数 養鶏 (鶏卵) 544,000羽、養豚 600頭、肉牛約 15,000頭
その他	主生産物販売取扱機関	農業協同組合、生産農家自身 (小売)
	金融機関	公営銀行、民間銀行
支援事業	主な支援事業は44頁参照。その他に、移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。	

バルゼア・アレグレ移住地向け事業団支援事業

事業名	項目	事業年度	事業内容	助成率
農業基盤整備	本邦農業専門家派遣事業	昭和50～59年		
生活環境整備	道路対策	昭和58年	域内道路工事用機械（シャベルカー、ダンプトラック）	全額
	電化対策	昭和53年		20%
	飲料水対策	昭和50年	深井戸（1基）	全額
	公民館建設	昭和49年		2/3
	自治体所有林造林事業	昭和50～55年		
教育環境整備	移住地内教育施設・設備	昭和38年 昭和51～52年 昭和62年	教員宿舎1棟 小学校校舎1棟、教員宿舎1棟 教員宿舎	
開発青年、 日系社会青年 ボランティア （派遣年度）1名	農林水産（0名）			
	医療衛生・福祉（0名）			
	教育・文化・その他（1名）	農協運営（昭和61年）		

移住地略図



団体名称：(和文) ：(欧文)	代表者： 職名 氏名 任期	連絡先(手紙)： 電話 FAX Eメール	会員の資格： 会員数 法人格取得(有無)： 年月(日) 専従：役員、職員	諸施設	傘下組織	活動内容・ 年中行事	備考
トメアスー文化協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL DE TOMÉ-AÇU	会長 新井範明 1996年1月～1997 年12月まで(2年 間)	CEP. 68682-000 CAIXA POSTAL 2314, QUATRO- BÔCAS, TOMÉ-AÇU, PARÁ, BRASIL (091)734-1316 (091)734-1316 なし	日系の自然人・法人 で理事会で承認され た者 191家族 有 1970年3月17日 11名、6名	文化会館(サロン)、運 動場(野球、バレーボ ール、サッカー、相撲 など)、日本語学校校 舎および学生寮、連 合婦人炊事舎、別館 (貸し事務所)、初 期移民の家、移民 の森(造成中)	日本語校・婦人部・文 化部(芸能、俳句、日 本舞踊、カラオケ、将 棋、囲碁)、体育部 (野球、相撲、バレー ボール、卓球、ゲー トボール等)、その他 (第二トメアスー自 治会、日系防犯委員 会、植林委員会、移 民史料収集委員会、 日語運営委員会)	日系人家族実態調査、 日本語学校運営、防 犯活動、植林啓蒙運 動、総領事館諸届業 務、高地・開拓先 亡者慰霊碑管理、 JICA業務(留學生、 研修生の申請等)、 各県人会、各学術 調査団への協力、 各種文化講演会開 催、成人式、敬老 会、カラオケ大会、 入植祭式典(開拓先 亡者慰霊法要・白 井賞等)各種スポ ーツ大会主催及び 共催	
トメアスー農村振興協会 ASSOCIAÇÃO FOMENTO AGRÍCOLA DE TOMÉ-AÇU	会長 新井範明 1996年1月～1997 年12月まで(2年 間)	CEP. 68682-000 CAIXA POSTAL 2314, QUATRO- BÔCAS, TOMÉ-AÇU, PARÁ, BRASIL (091)734-1316 (091)734-1316 なし	トメアスー地区を中 心に隣接郡アカラ、 モジュー、フジャ ルー地区内に居住 する農地所有者ま たは借地者で本会 の定款に賛同する 者 126名 有 1981年8月7日 11名、9名	育苗センター、堆肥 造成場、木工場、農 耕地造成用及び道 路修復用各種重機 ・車輛倉庫	営農普及事業、重機 運用部門、育苗セ ンター、堆肥製造 場、木工場、その他	営農普及事業、生産 物運搬事業、JICA 受託業務、育苗事 業、農地造成事業、 道路・架橋修復事 業、木工事業、堆 肥製造頒布事業、 その他各日系団体 との共同事業(環 境整備事業、植林 啓蒙事業、移民史 料収集事業、防犯 活動など)	

団体名称：(和文) ：(欧文)	代表者： 職名 氏名 任期	連絡先(手紙)： 電話 FAX Eメール	会員の資格： 会員数 法人格取得(有無)： 年月(日) 専従：役員、職員	諸施設	傘下組織	活動内容・ 年中行事	備考
トメアスー総合農業協同組合 COOPERATIVA AGRÍCOLA MISTA DE TOMÉ-AÇU	理事長 伊藤謙二 1997年4月～2000 年3月まで(3年 間)	CEP. 68682-000 CAIXA POSTAL 2313, QUATRO- BÔCAS, TOMÉ-AÇU, PARÁ, BRASIL (091)734-1319 (091)734-1073 なし	自己所有地・借地に おいて農業・牧畜・ 養禽の生産もしくは 植物性産物の採集に 従事する者 110名 有 1949年9月9日 7名、60名	本部(三階建事務所)、 ビメンタ・カカオ倉庫、 農産物(青果類)出荷 場、ジュース加工工場、 ゴム加工場、貨貸施設 (車輛修理工場、スー パー店舗、ガソリンポ スト、肥料・農薬販売店 舗及び倉庫)	教育委員会、農事研究 会、その他	組合員生産物の販売、 ビメンタ(胡椒)・カカ オの輸出業務、熱帯果 実ジュースの製造販 売、生産物貯蔵倉庫業 務、農業融資銀行業務 一般、施設貸貸業務 (スーパーマーケット、 ガソリンポスト、農薬 肥料店舗・倉庫)その 他	
トメアスー経済地理地域農村電化 電話協同組合 COOPERATIVA DE ELETRIFICAÇÃO E TELEFONIA RURAL DA REGIÃO GEOECONÓMICA DE TOMÉ-AÇU	理事長 高橋重雄 1997年3月～2000 年2月まで(3年 間)	CEP. 68682-000 QUATRO- BÔCAS, TOMÉ-AÇU, PARÁ, BRASIL (091)734-1068 なし なし	組合の活動区域に居 住する自然人ないし 法人であって、農畜 産、自然採集及び鉱 山業、農産加工業に 従事し、その事業を 自己の土地、借地、 共有地ないし正当な 手段により占有した 土地において行って おり、組合定款の同 意者 118名 有 1987年10月9日 5名、3名	農村電話無線塔、自動 電話交換器など		農村電化と農村電話架 設事業、施設管理と組 合員へのサービス業 務。農村電気はパラ 州電力会社に施設譲渡 して、現在は組合員と 電力会社の連絡業務を 主体に活動、農村電話 もパラ州電話局への 施設譲渡を考慮中	

団体名称：(和文) ：(欧文)	代表者： 職名 氏名 任期	連絡先(手紙)： 電話 FAX Eメール	会員の資格： 会員数 法人格取得(有無)： 年月(日) 専従：役員、職員	諸施設	傘下組織	活動内容 年中行事	備考
トメアスー日本語学校(イビラン ガ日本語学校分校も含む) ESCOLA LÍNGUA JAPONESA DE TOMÉ-ACU	校長 新井範明	CEP. 68682-000 CAIXA POSTAL 2314, QUATRO- BÔCAS, TOMÉ-ACU, PARÁ, BRASIL (091)734-1316 (091)734-1316 なし	日本語習得を希望す る者 105名 有 1名、9名	職員室、書庫、給食室 (図書室兼用)、教室5 室、幼稚舎1棟、遊戯場	PTA	トメアスー日本語学校 教育は、太平洋戦争時 を除き、1929年の入植 時(南米拓殖株式会 社)より、形態を変え ながらも水々と続いて おります。現在は入学 式、ピクニック、学芸 発表会、運動会、終業 式等トメアスー文化協 会の事業の一環とし て、傘下組織の日本語 学校運営委員会によ って運営されている。最 近ではシニア日系社会 ボランティア日語教師 の指導の下に、外国人 に教える日本語教授法 の現地教師への指導と 実践を行っている。ま た、高校生就学年齢に よるベレン市遊学を考 慮して幼稚科(4歳児 位)からの日本語教育 を行っている。第二ト メアスーにはイビラン ガ分校(谷沢喜巳雄校 長と教師2名)があ る。	機関紙： トメアスー 日本語学校 学校要覧 150部

団体名称：(和文) ：(欧文)	代表者： 職名 氏名 任期	連絡先(手紙)： 電話 FAX Eメール	会員の資格： 会員数 法人格取得(有無)： 年月(日) 専従：役員、職員	諸施設	傘下組織	活動内容・ 年中行事	備考
アマゾンニア日伯援護協会十字路病院 HOSPITAL AMAZÔNIA QUATRO- BÔCAS DE TOMÉ-AÇU	十字路病院運営委員長 乙幡正三(アマゾンニア 援護協会理事)	CEP. 68682-000 QUATRO- BÔCAS, TOMÉ-AÇU, PARÁ, BRASIL (091)734-1035 (091)734-1080 なし	有 アマゾンニア日伯援護 協会に準ずる 役員2名、医師1 名、歯科医1名、検 査医1名、看護婦4 名、ほか事務員、雑 役夫12名	病床11床(個室3床、男 子大部屋4床、女子大 部屋3床)、レントゲン 室、内科、小児科、歯科、 産婦人科、検査室、手術 室、炊事室、洗濯場その 他病院施設		アマゾンニア日伯援護協 会のトメアスー十字路 病院として、地元トメ アスー住民の募金と国 際協力事業団の助成に よって建設され、援護 協会派遣の医師・看護 婦メンバーが常勤して おり、病院経営は十字 路病院委員会によって なされるが、あくまで も経営母体はアマゾン ニア日伯援護協会に所 属している。日系人への 医療サービス、援護協 会派遣の厚生ホームよ り老人福祉問題などの アフターケア有り。日 系人のみならず、白人 利用者も多数。	機関誌： 援護だより
汎アマゾンニア日伯協会 ASSOCIAÇÃO PAN AMAZÔNIA NIPO-BRASILEIRA	会長 清水征彦	CEP. 66060-460 TV. 14 DE ABRIL, 1128 BELÉM, PARÁ, BRASIL なし なし なし					

団体名称：(和文) ：(欧文)	代表者： 職名 氏名 任期	連絡先(手紙)： 電話 FAX Eメール	会員の資格： 会員数 法人格取得(有無)： 年月(日) 専従：役員、職員	諸施設	傘下組織	活動内容・ 年中行事	備考
北伯日本語普及センター CENTRO DE DIFUSÃO DA LÍNGUA JAPONESA DO NORTE DO BRASIL	理事長 増山秀海 1998年12月(2年間)	CEP. 66060-460 TV. 14 DE ABRIL, 1128, BELÉM, PARÁ, BRASIL なし なし なし	日本語学校運営者、日本語教師、日本語教育に関心のある者 60名 有 11名、1名	事務所、会議室、教材関係図書、教具類	各地区日本語学校	日本語の教材開発と日本語教師養成講座、新任教師特別研修会、地区ブロック及び総合ブロック研修会(国際協力基金)、日本語教師合同研修会(JICA)、お話し弁論大会・日本語能力検定試験への協力。各日本語学校への連絡業務。	
ファンチャール文化体育協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL ESPORTIVA DE FUNCHAL	会長 小松滋 平成9年12月まで(1年間)	SHIGERU KOMATSU CX.P.98152 CACHOEIRAS DE MACACU-RJ. CEP 28680-000 (021)745-3125 なし なし	移住地内に居住する日系人のみ 28名 有 昭和51年11月 10名、0名	公民館600㎡、青年会館150㎡、バレーボール場300㎡、電話無線塔300㎡、郡保健支所150㎡、その他体育用グラウンド14,000㎡	日語校・青年部・婦人部・運動部・その他	運動会、ソフトボール大会、盆踊り大会、その他年3回位の親睦会、日語校、婦人会、青年会及びスポーツ遠征費助成	
リオ・デ・ジャネイロ農牧産業組合 COOPERATIVA AGROPECUARIA DO RIO DE JANEIRO	理事長 津守真 97年12月まで(2年間)	FAZENDA FUNCHAL CACHOEIRAS DE MACACU-RJ. CEP 28680-000 (021)745-3120 なし なし	創立会員 85名 有 1993年12月 6名、4名		販売・購買	総会、臨時総会、見学旅行、講習会、研修会	
ファンチャール文化体育協会日語学校	会長 村山伊佐男 97年12月まで(1年間)	FAZENDA FUNCHAL CACHOEIRAS DE MACACU CEP 28680-000 (021)745-3110 なし なし	無 3名、1名		生徒9名	運動会、見学旅行、お話し大会参加	

団体名称：(和文) ：(欧文)	代表者： 職名 氏名 任期	連絡先(手紙)： 電話 FAX Eメール	会員の資格： 会員数 法人格取得(有無)： 年月(日) 専従：役員、職員	諸施設	傘下組織	活動内容・ 年中行事	備考
ノーヴァ・フリブルゴ日伯文化体育協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL E ESPORTIVA NIPO-BRASILEIRA DE NOVA FRIBURGO	藤巻修允 97年12月まで (1年間)	RUA 7 DE SETEMBRO, 38 CENTRO, NOVA FRIBURGO-RJ. なし (024)522-4200 nfujimak@nibra.com.br	40名 有 76年11月	会館(平屋建坪100m) 及び敷地2,000㎡	日語校、青年部	地域社会の親睦融和をはかる意のある企画は全て行う—運動会、入植祭等。上部機関(リオ日伯文化体育連盟)の役員会への参加、対外競技、各種の行事に参加。	機関紙： あせんび 120部
ノーヴァ・フリブルゴ日語学校	加藤英子(教師)		無				
リオ・ア・ジャネイロ州日伯文化体育連盟 SOCIEDADE CULTURAL E ESPORTIVA NIPO-BRASILEIRA DO ESTADO DO RIO DE JANEIRO	理事長 菅原和司 98年12月まで (2年間)	AV.FRANKLIN ROOSEBELT 39, SALA 919-CENTRO CEP 20021-120 RIO DE JANEIRO-RJ. (021)262-2416 (021)262-7232 なし	加盟団体会員 1,200名 有 1948年8月 25名、4名	事務所、学生寮、日語モデル校、教材センター	25団体	各種親睦行事並びにスポーツ、日語普及活動	機関紙： あゆみ 1,000部
ジャカレイ移住地日本人会	会長 式部正道 1997年12月まで (1年間)	RUA DR. LUCIO MALTA 424 JACAREÍ, SÃO PAULO CEP 12300-000 012 (351) 8381 なし なし	移住地内に土地を 所有する者 25名 無		公民館は連合文協に譲渡した。	最近に移住地内だけの活動は特に行われていない。行事としては元旦の新年会と年2回の定期総会が行われている。部落葬は今も継続されている。	

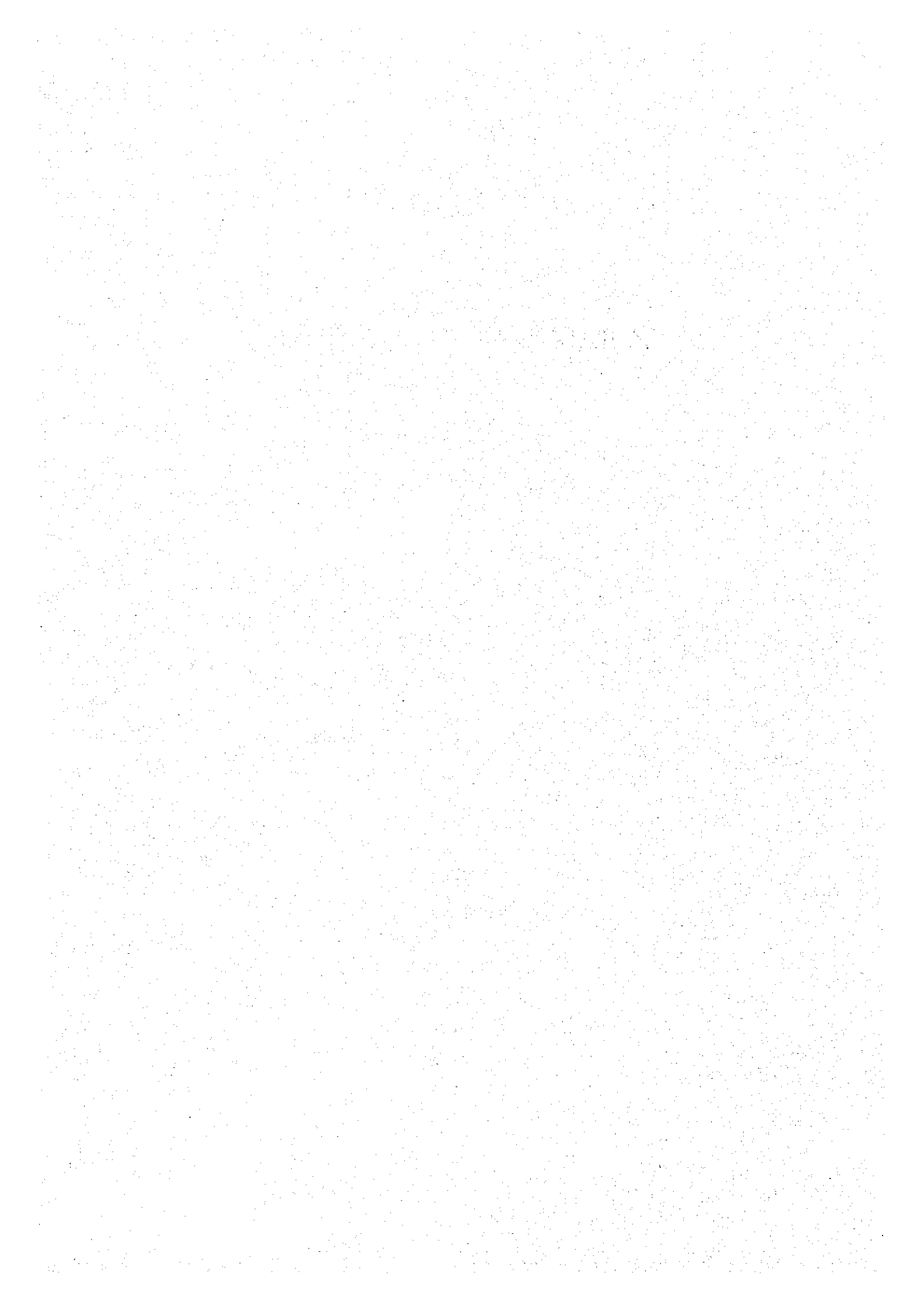
団体名称：(和文) ：(欧文)	代表者： 職名 氏名 任期	連絡先(手紙)： 電話 FAX Eメール	会員の資格： 会員数 法人格取得(有無)： 年月(日) 専従：役員、職員	諸施設	傘下組織	活動内容・ 年中行事	備考
ジャカレイ日本語学校 ESCOLA JAPONESA DE JACAREÍ	会長 玉腰 JOÃO 1998年6月まで (1年間)	012(356)1488 なし なし	約40名	学校は教室4室、職員 室1室、炊事場1棟		毎週火、木、土曜日に 開校	
ジャカレイ日伯文化体育協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL E DESPORTIVA NIPO-BRASILEIRA DE JACAREÍ	理事長 佐々木 殉 1997年12月まで (1年間)	012(356)1488 なし なし	有 1970年3月 1名(職員)			総会、運動会、敬老会、 釣大会、スポーツ大 会、講演会、FAPJA、 先進地視察	機関紙： 文芸ニュース 200部
グアタバラ農事文化体育協会 ASSOCIAÇÃO AGRO CULTURAL E DESPORTIVA DE GUATAPARÁ	会長 近藤 四郎 1998年2月まで(1 年間)	NÚCLEO COLONIAL GUATAPARÁ, BAIRRO MOMBUCA, MUNICÍPIO GUATAPARÁ, ESTADO DE SÃO PAULO, BRASIL CEP14115-000 (016)673-0088 (016)673-0065 なし	118名 有 1981年4月 8名、6名	中央公民館、日語校舎、 事務所、プール、野球 場、サッカー場、グート ボール場	日語校、青年部、婦人 部、敬老会、運動部、委 員会、大型機械、水道、 市街地管理・財務	新年会、入植祭、収穫 祭、運動会	機関紙： グアタバラ新聞 150部
グアタバラ農業協同組合 COOPERATIVA AGRÍCOLA DE GUATAPARÁ LTDA.	理事長 斎藤 長一 1998年12月まで(2 年間)	NÚCLEO COLONIAL GUATAPARÁ, MOMBUCA, GUATAPARÁ, S.P BRASIL CEP 14115-000 (016)673-0011 (016)673-0021 なし	23名 有 1995年3月 4名、42名	事務所	販売、購買、サイロ、飼 料工場	養鶏感謝祭	

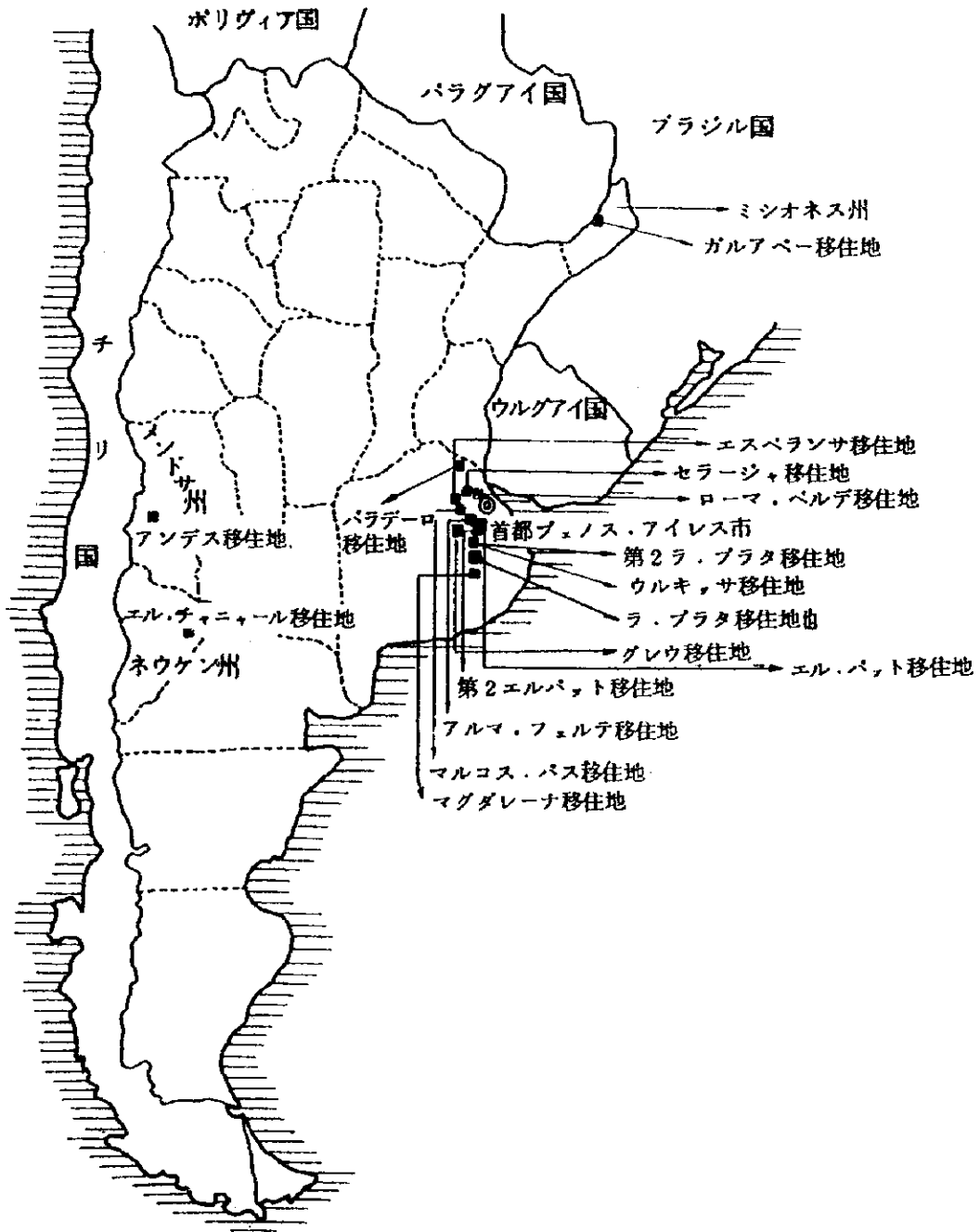
団体名称：(和文) ：(欧文)	代表者： 職名 氏名 任期	連絡先(手紙)： 電話 FAX Eメール	会員の資格： 会員数 法人格取得(有無)： 年月(日) 専従：役員、職員	諸施設	傘下組織	活動内容・ 年中行事	備考
グアタバラ日本語学校	教育委員長 脇山俊吾 1998年2月まで(1年間)	BAIRRO MOMBUCA, GUATAPARÁ, S.P BRASIL CEP 14115-000 (016)673-0088 (016)673-0065 なし	無	日語校舎		他の日本語学校との交流会	
コロニヤ・ピニャール文化体育協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL E ESPORTIVA DE COLONIA PINHAL	会長 広瀬義夫 1997年12月まで(1年間)	CX. POSTAL 80 SÃO MIGUEL ARCANJO CEP 18230-000 (015)972-9288 なし なし	植民地内の居住者 57名 有 1976年2月24日 11名、1名	運動場(野球場)、バレーボール・コート、サッカー場、ゲートボール・コート	日語校、青年部、婦人部、運動部	新年会、村内運動会、敬老会、父母の日、児童お話大会、村内ピンボン大会、カラオケ大会	
南伯サンミゲールアルカンジョ農業協同組合 COOPERATIVA AGRÍCOLA SUL-BRASIL DE SÃO MIGUEL ARCANJO	理事長 市瀬成生 2000年3月(3年間)	CX. POSTAL 80 SÃO MIGUEL ARCANJO CEP 18230-000 (015)279-1211 なし なし	近辺農業者 55名 有 1968年 11名、5名	施設一切旧中央会より南米銀行に渡っているため所有施設なし。但し借用物件として事務所、倉庫、職員住宅あり。	販売、購買	生産向上に努め販路拡大を目標としている。	
コロニア・ピニャール日語モデル校 ESCOLA MODELA DE LÍNGUA JAPONESA DE COLONIA PINHAL	運営委員長 徳久俊行 1998年12月まで(2年間)	CX. POSTAL 80 SÃO MIGUEL ARCANJO CEP 18230-000 (015)972-3858 なし なし	児童父兄 24名 4名(職員)			一般日語指導及びコンピュータ指導も取り入れている。臺南西行事にできるかぎり参加している。	

団体名称：(和文) ：(欧文)	代表者： 職名 氏名 任期	連絡先(手紙)： 電話 FAX Eメール	会員の資格： 会員数 法人格取得(有無)： 年月(日) 専従：役員、職員	諸施設	傘下組織	活動内容・ 年中行事	備考
聖南西スポーツ連盟 UNIÃO DESPORTIVA SUDOESTE	会長 伊藤実 1997年12月まで (1年間)	RUA JOÃO EVANGELISTA 703, ITAPETININGA CEP 18200-000	地域文化協会 23団体 無 14名(役員)		23地域文化協会	各種スポーツ試合、芸 能発表会、日語教育に 関したコンクール(お 話、作文、能力等)	
バルゼア・アレグレ日伯体育文化 協会 ASSOCIAÇÃO EC. NIPO BRASIL DE VARZEA ALEGRE	会長 鈴木伊助 1997年12月まで (2年間)	CAIXA POSTAL 379 (CAM.V.A) CAMPO GRANDE 79002.080 MS (067)384-4193 学生寮または組合 383-1732 なし なし	43名 有 1979年3月4日	公民館、野球場2、ゲー トボールコート2、テ ニスコート2、運動場 1、日語校教室2棟(事 業団事務所)、道路補修 機械の車庫、学生寮(カ ンボグランデ市)	日語校、婦人会、体育 部、野球部	新年宴会、入植祭、運動 会、盆踊り及び追悼法 要(先没者)。年末の忘 年会、野球部は少年、青 年、O3等でチームを 作り南麻州の各市に親 善対抗試合に年に10回 以上出向いている。 女子のソフトボールも あり年に3~4回各市 に出向いている。	
バルゼア・アレグレ 産業組合 COOPERATIVA AGRÍCOLA MISTA DE VARZEA ALEGRE	会長 金崎英司 1997年12月まで (2年間)	CAIXA POSTAL 379, RUA 26 DE AGOSTO Nº 725 CAMPO GRANDE, MS 79002-080 (067)383-1732 (067)721-8428 なし	バルゼア・アレグレ 入植者 30名 有 1962年5月 理事3名、監事3 名、職員87名	カンボグランデ市(事 務所、売店、飼料工場)、 バルゼア入植地(購買 品扱い店、職員宿舎)、 クヤバ市(卵の売店)、 Rondノボリス市(卵 の売店)	販売・購買・サイロ・飼 料工場		
ブラジル日本文化協会 SOCIEDADE BRASILEIRA DE CULTURA JAPONESA	会長 山内淳	RUA SÃO JOAQUIM 381, SÃO PAULO, SP CEP 01508-001 011-278-1343 なし なし	法人及び個人 法人会員480社 賛助会員210名 個人会員1,800名 有 1955年12月17日	文化センター 日本館 移民資料館		文化活動、育英事業、 日伯文化交流事業	機関誌： コロニア 3,500部

団体名称：(和文) ：(欧文)	代表者： 職名 氏名 任期	連絡先(手紙)： 電話 FAX Eメール	会員の資格： 会員数 法人格取得(有無)： 年月(日) 専従：役員、職員	諸施設	傘下組織	活動内容・ 年中行事	備考
サンパウロ日伯援護協会	会長 和井武一	RUA SÃO JOAQUIM 381, SÃO PAULO, SP CEP 01508-001 011-278-1640 なし なし	法人及び個人 法人会員 350 社 個人会員 14,375 名 有 1959年1月28日		診療所 厚生ホーム サナトリオ やすらぎ スザノ 日伯友好病院		援協月報
日本語普及センター	理事長 坂口孟	RUA MANUEL DA PAIVA 45, VILA MARIANA, SÃO PAULO, SP CEP 04106-020 011-570-6513 011-570-7337 なし					

アルゼンティン共和国





1. 移住先国別データ

(1) 基礎指標

正式国名	アルゼンティン共和国
首都	ブエノス・アイレス
面積	2,782km ²
人口	34,590,000人 (95年国連)
独立年月日	1816年5月25日
政体	立憲共和国
宗教	カトリック
言語	スペイン語
民族・人種構成	白人系97%、インディオ系3%

(2) 経済指標

年 度	1993	1994	1995
GNP (世銀・百万ドル)	244,013	275,657	N.A.
一人当たりGNP (世銀・ドル)	7,270	8,060	N.A.
GDP成長率 (国連・%)	5.3	6.7	▲4.6
インフレ率 (国連・%)	7.4	3.9	1.6
失業率 (国連・%)	9.6	11.5	17.5
対外債務残高 (IMF・百万ドル)	70,566	77,388	N.A.
経常収支 (IMF・百万ドル)	▲7,046	▲9,363	▲2,390
通貨・交換レート (IMF・ペソ)	0.9985	0.9995	1.000
輸出 (IMF・百万ドル)	13,118	16,531	18,603
輸入 (IMF・百万ドル)	16,773	22,869	18,352
商品別貿易実績 (95年IMF・百万ドル)	(輸出) 農産加工品5,571、工業製品4,632、第一次産品3,799、 石油製品1,619 (輸入) 中間財9,702、資本財7,422、消費財3,897、燃料591		

(出典：1997年度版中南米諸国便覧(外務省中南米局監修) p.60～p.61. 社団法人ラテンアメリカ協会)

2. アルゼンティンへの日本人移住の歴史

ア国への日本人移住者は明治—大正期はわずか1,300人で、昭和初期から盛んになり、1941年までに約4,000人に達し、合計5,300人（内沖縄県人約2,800人）で、1940年当時の在留邦人は2世を含めて約7,000人に達している。当時は独身男子が圧倒的に多く成年男女の比率は3：1であった。

ア国への移住者は、ブラジルの契約移民と異なり、アンデス越えのペルー移民の流れや、故星清蔵氏（福島県出身、果樹園経営、1908年釜戸丸移民の転住）などブラジルからの転住者、及び日本からの直接の自由移民（渡航費の補助なし）や外務省海外実習生（1935年～41年に116人）などであった。その中には、故伊藤清蔵博士（牧場主、山形県出身、1910年着亜）のような海外雄飛や牧場経営のロマンを求めた青年達もあったが、大半は出稼ぎ移住であった。また、大正期までの初期移民の転業は外人の農場の支配人、工場の労働者、家庭奉公、造園師、食堂や洗濯屋の下働きなどが大部分であった。大正中期になって小金を貯めると、とりつき易くて日銭が入る職業としてまず洗濯屋、コーヒー店を始める者や、野菜栽培農家として独立した。蔬菜栽培の先駆者は故石川倉次郎氏（茨城県出身、1910年着亜）であった。次いで昭和初期になると、故高市茂氏（愛媛県出身、1916年着亜）や賀集九平氏（北海道出身、1918年着亜）などの先駆者の指導もあり、花卉栽培者として独立するものが増えた。また、これらの中には、旧制中学や農学校卒業のインテリも多く、その大半はブエノス市及びその近郊60km圏内に集中して居住していた。ブラジルのような海外興業会社やブラジル拓殖組合などの植民団体もなく、また日本政府の特別な援助もなく自らの手で、蔬菜（1923年）、洗染業（1929年）及び花卉（1933年）など各々の同業組合を作り、頼母子講によって相互に助け合いながら試行錯誤をくりかえし苦難の道を開いてきたのである。1940年頃になると今日のような洗染業と花卉及び蔬菜栽培を主とする日系社会の職業分布の基礎が形成されたといわれている。

ア国は1944年1月になって日独と断交し、1945年3月宣戦布告し第2次大戦に参加したが、行動制限や日本人学校の閉鎖位で日本人は不安の中にも食料にも恵まれ、抑留などの特別な迫害は受けなかった。母国の敗戦により、戦前組は永住の意思をかため定住するようになった。

1948年にはブラジルにさきがけて、呼寄移住が再開され、神奈川県実習生移住も始められた。1953年10月ア国拓殖協同組合が設立され、400戸の導入許可取得に伴い、ガルアペー、アンデス移住地への計画移住も始まり、次いで海外実習生制度（1957年）や花卉雇用青年導入枠（1960年）によるものを含めて現在まで約5,800人（内、沖縄県人約3,800人）が日本から直接移住している。

また、戦後隣接国へ移住した人の中で、1965年頃からア国への転住が増えたが、「亜拓扱い」分のみでも次のとおりである。

パラグアイ	226件	769人
ボリヴィア	179件	368人
ブラジル	25件	60人
計	430件	1,197人

この他に旅行業者扱いによる転住者が、推定1,000人以上あると思われる。戦後移住者総数は12,066人（平成元年12月末現在、外務省旅券発給統計）と言われている。

アルゼンティン在留邦人及び日系人数統計

総数 (1+2)			1. 長期滞在者			2. 永住者			3. 日系人推定数 (注1)		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
6,127	5,333	11,460	366	236	602	5,761	5,097	10,858			32,000

出典：平成9年版海外在留邦人数調査統計（平成8年10月1日現在）

（注1）日系人推定数は永住者+2世以降の日系人で、各種統計等より推定。（平成10年1月、外務省領事移住部）

ガルアペー移住地

所在地	ミシオネス州リベルタードール・ヘネラル・サン・マルティン郡 Garuhape, Departamento Gral. San Martin, Provincia de Misiones	
面積	全移住地面積 3,110ha. 1区画平均 30ha.	
沿革	<p>ガルアペー移住地の所在するミシオネス州は、移住者（戦前約 100 世帯、戦後約 30 世帯）がすでに在住してその大部分が農業に従事し、かなりの成功をおさめていたことから、亜国拓殖協同組合（通称「亜拓」）が 1955 年 Luis M. Garacino 氏から 220ha の土地を購入し、家族並びに青年呼寄の母体として、実習農場や種苗育成農場の経営を進めていたところ、当地方の広大な土地を所有する Garacino 氏は、日本人の勤勉さに目をつけ、同氏の所有土地を日本人に分譲し日本人移住地が実現すれば同地方の発展に大いに寄与するであろうとして、亜拓に土地の分譲を申し入れた。これを契機に、亜拓がアルゼンティン移民局に 400 家族の導入許可申請を行ない、1957 年 1 月 11 日移民局から 400 家族の導入許可を取得して（ただし 1 州 80 家族導入を限度とする）、日本海外移住振興株式会社が同年 8 月 3 日 Garacino 氏所有の土地の一部 3,110ha を購入し、80 家族の入植を目標とした移住地の造成が開始され、1959 年 5 月日本から第一陣 4 家族が入植した。その後、1965 年までドミニカからの転住者 12 世帯を含めて 84 世帯が入植したが、その後退耕者もあって、1991 年 10 月現在の定住者は 12 家族となっている。</p>	
自然環境	地形	アルト・パラナ河畔にあり河に向かって緩く傾斜している波状丘陵地で標高 250～300m である。地区内には小川が多い。
	地質・土壌	母岩は主として玄武岩で、土壌はその風化土壌であるティエラ・コロラド（ブラジルでいうテラ・ロッシャ）で極めて肥沃である、所どころにトスカといって黄色味を帯びた比較的軽い石混じりの土壌地帯もあり、また、アルト・パラナ河畔には砂質の所もある。
	植生・林相	高さ 20m から 25m の高木が割合密に生い茂っている原生林であるが、有用材はほとんど伐りつくされている。
	気候	雨期、乾期の別は明らかでない。 年間降雨量は 1,500mm、平均気温は 20℃、最高平均気温 33.3℃、最低平均気温 8.5℃。
社会環境	最寄都市（1） （該当するもの■）	<p>名称：ガルアペー市</p> <p>距離：約 15km（うち未舗装 0km） 交通手段：□鉄道 ■定期バス</p> <p>■自家用車 所要時間：約 15 分 人口：1 万人弱</p>

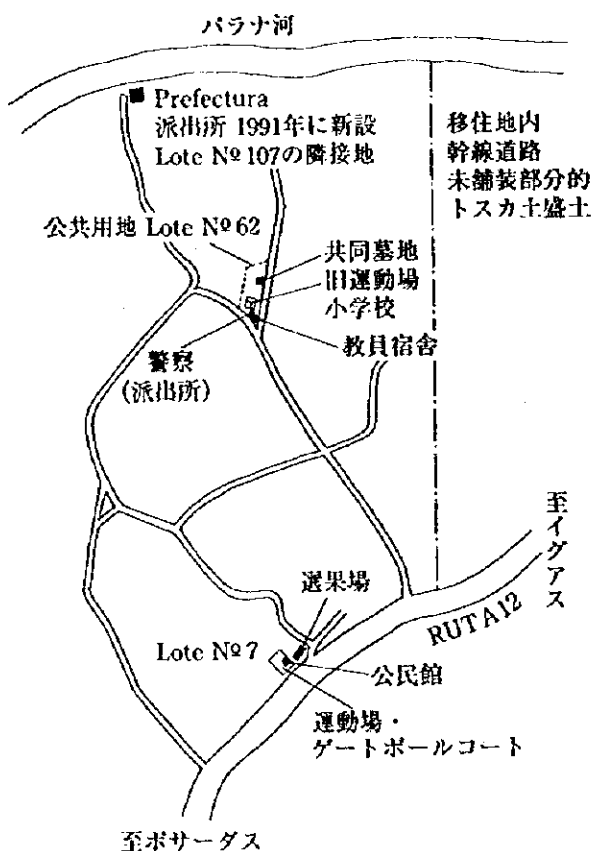
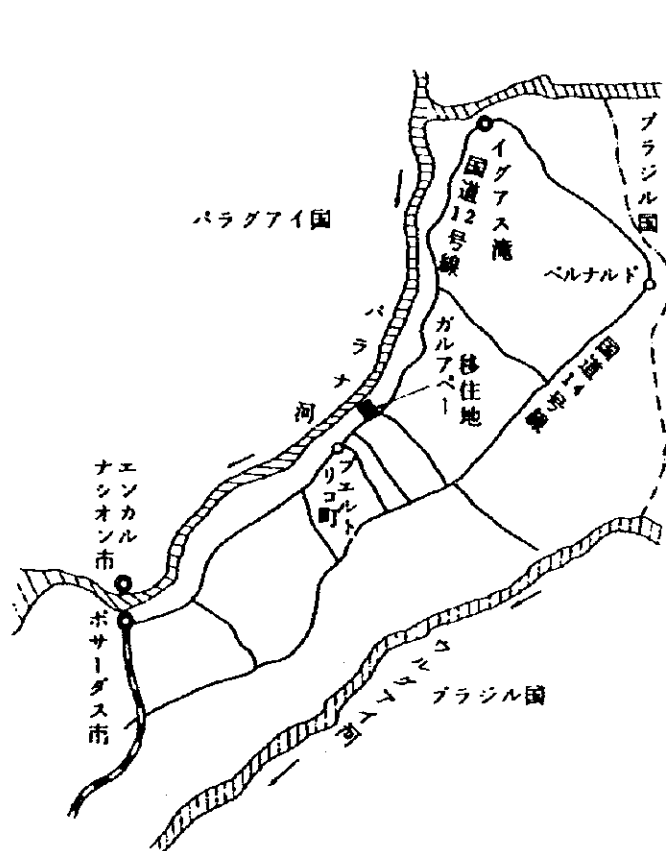
社 会 環 境	最寄都市（2） （該当するもの■）	名称：プエルト・リコ市 距離：約20km（うち未舗装0km）交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス ■自家用車 所要時間：約30分 人口：約3万人
	大都市 （該当するもの■）	名称：ボサーダス市 距離：約150km（うち未舗装0km）交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス ■自家用車 所要時間：約3時間 人口：約20万人
	行政インフラ	役所（ガルアペー市） 公証人役場（ガルアペー市） 警察（ガルアペー市） 交通警察（ボサーダス市） 郵便局（プエルト・リコ市） 電話局（ガルアペー市）
	社会インフラ （該当するもの■）	<p>【公共施設】</p> <p>■公民館 <input type="checkbox"/>体育館 ■運動場 ■その他（共同墓地）</p> <p>【教育】</p> <p><input type="checkbox"/>保育園 <input type="checkbox"/>幼稚園 ■小 <input type="checkbox"/>中 <input type="checkbox"/>高 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>【日語校】</p> <p>教師数2人、生徒数14人、教室（<input type="checkbox"/>専用 ■共用 <input type="checkbox"/>個人宅） 教室数2室、学級（<input type="checkbox"/>単式 ■複式）</p> <p>【保健・医療】</p> <p><input type="checkbox"/>保健所 <input type="checkbox"/>診療所 <input type="checkbox"/>病院 <input type="checkbox"/>薬局 <input type="checkbox"/>検査所</p> <p>・医師：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤</p> <p>・看護婦：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤</p> <p>・その他（ ）</p> <p>【警察】</p> <p>■派出所 <input type="checkbox"/>定期巡回 <input type="checkbox"/>不定期 <input type="checkbox"/>その都度</p>
	産業インフラ （該当するもの■）	<p>【農業用水】</p> <p><input type="checkbox"/>公営灌漑用水 <input type="checkbox"/>域内灌漑用水 ■河川水 ■地下水 ■溜池 ■天水</p>
	生活インフラ （該当するもの■）	<p>【移住地内幹線道路】</p> <p><input type="checkbox"/>舗装 <input type="checkbox"/>一部舗装 <input type="checkbox"/>砂利舗装 ■盛土道路 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>【電気】</p> <p>■全戸電化 <input type="checkbox"/>一部電化 <input type="checkbox"/>自家発電 <input type="checkbox"/>なし</p> <p>【飲料水】</p> <p><input type="checkbox"/>水道 ■井戸水 <input type="checkbox"/>雨水 <input type="checkbox"/>市販水 （水質： ■飲用可 <input type="checkbox"/>要煮沸 <input type="checkbox"/>飲用不可）</p> <p>【電話】</p> <p>■普通電話 ■携帯電話 ■公衆電話 <input type="checkbox"/>なし</p>
	入植者状況	<p>直接入植者戸数 16戸（うち非居住者7戸）</p> <p>現地入植者戸数（日系人）6戸（うち非居住者3戸）</p>

入植者状況	入植者戸数	(非日系人) 5戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者
	日系人入植者	農業専業 20戸
農業現況	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積 (単位: ha)
	雑穀	大豆 (自家用)、とうもろこし (試作、自家用)、ゴマ (自家用)、アズキ (自家用)
	果樹	ブドウ (試作)、柑橘 (オレンジ/みかん/モロコッチ等) 12.0ha、柿 (試作)、桃 3.5ha、マンゴ 1ha、アボガド 2ha、クリ (試作)
	香辛料	ショウガ (自家用)
	蔬菜	トマト (自家用)、メロン (試作)、ハクサイ等 (自家用)、キュウリ (自家用)、ニンジン (自家用)、ニンニク (自家用)、華人瓜 (自家用)、サツマイモ (自家用)、里イモ (自家用)、タピオカ (自家用)
	畜産	1戸当たりの平均飼養成頭羽数 養鶏 (鶏卵) 自家用、養鶏 (鶏肉) 自家用
林業	P. Elliotti 300ha, P. Parana 300ha	
その他	主生産物販売取扱機関	生産農家自身 (卸売市場)、生産農家自身 (小売)、その他 (有限会社)
	金融機関	事業団、公営銀行、民間銀行
支援事業	主な支援事業は66頁参照。その他に、移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。	

ガルアペー移住地向け事業団支援事業

事業名	項目	事業年度	事業内容	助成率
農業基盤整備	試験農場	昭和38～42年	ガルアペー農場	
	本邦農業専門家派遣事業	昭和50～平成5年 昭和60～平成2年 平成4～7年	ガルアペー農場協モモ研究グループ・ミカン研究グループ 温州ミカン校枯症対策	
生活環境整備	道路対策	昭和38年	域内道路工事	全額 1/2
		昭和42年	水害対策工事	
		昭和56年	域内道路補修工事	全額
	電化対策	昭和47年		1/2
	飲料水対策	昭和49年	深井戸(1基)	全額
医療衛生環境整備	公民館建設	昭和59年		2/3
		治安対策	昭和42年 昭和43年 昭和48年 昭和52年 平成2年 平成4年	警察屯所1棟 オートバイ1台 オートバイ(更新)1台 オートバイ(更新)1台 水上警察屯所1棟 無線機
	診療施設・設備	昭和38～49年	車輛2台	
		昭和50～59年	車輛1台	
	診療所運営助成	昭和44～平成5年	本邦・現地医師派遣、運営費・看護婦給与助成	
		昭和40年 平成6年	小学校校舎1棟、教員宿舍3棟 移住地内第486小学校、校舎屋根補修	

移住地略図



アンデス移住地

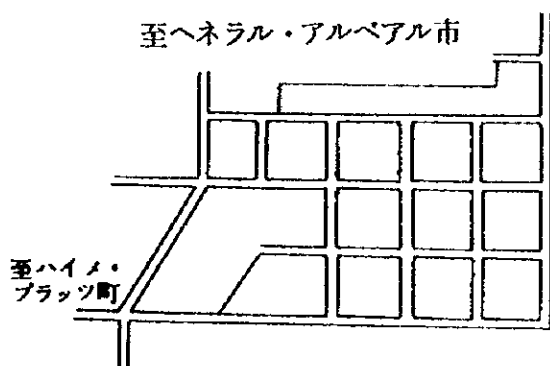
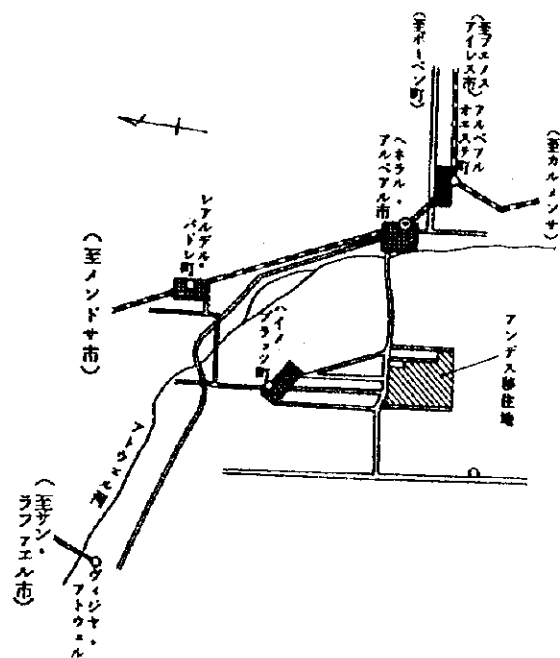
所在地	メンドサ州サン・ラファエル郡 Andes, Departamento de San Rafael, Provincia Mendoza	
面積	全移住地面積 1,312ha. 1区画平均 10ha.	
沿革	<p>アンデス移住地は、ガルアペー移住地に次いで集団移住地として、旧日本海外移住振興株式会社が1959年5月、メンドサ州アトエルスード地区に1,312haの土地を購入し、亜拓が取得した日本人移住者導入許可条件（1州80家族を限度とする）に基づき、80家族の導入を計るべく設定されたものである。</p> <p>1962年現地入植を皮切りに、1963年北米カリフォルニアで、派米短期農務者として就労経験をもつ青年10名が集団入植し、併せて1966年までに27家族が入植したが、その後退耕者があり、定住者は現在11家族である。</p>	
自然環境	地形	標高600m, 所どころに起伏があるが概して東南に向かって緩やかな傾斜をなす平坦地である。
	地質・土壌	埴質土壌を含んだ砂質土で砂は粒子、すこぶる細かく粘土分も含まれているが、その含有率は所により異なる。弱アルカリ性土壌でpHは7.5～8.0位。移住地内35%～40%の白、黒の塩（塩害）が有る。
	植生・林相	耐乾性の強い約40～70cm位の灌木類が密生しており、巨木はない。
	気候	1年を通じ最も暑い時期が1月で最高平均気温24.7℃、最も寒いのは7.9℃となっている。7～8月頃に1～2回雪の降ることがある。平均年間降雨量400mm。
社会環境	最寄都市（1） （該当するもの■）	名称：ヘネラル・アルベアル市 距離：12km（うち未舗装0km） 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：15分 人口：約 万人
	最寄都市（2） （該当するもの■）	名称：サン・ラファエル市 距離：95km（うち未舗装0km） 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：1時間20分 人口：約 万人
	大都市 （該当するもの■）	名称：メンドサ市 距離：320km（うち未舗装0km） 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：4時間30分 人口：約 万人

農業現況	蔬 菜	苺 1.5ha
その他	主生産物販売 取扱機関	農業協同組合、加工業者、商社等仲買業者
	金 融 機 関	事業団、公営銀行
支援事業	<p>主な支援事業は71頁参照。その他に、移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。</p>	

アンドン移住地向け事業団支援事業

事業名	項目	事業年度	事業内容	助成率
農業基盤整備	本邦農業専門家派遣事業 営農改善特別対策事業	昭和50～平成5年		
		昭和44～47年	生産技術改善特別対策 塩害対策	全額
		昭和46～47年	農業用水整備 深井戸掘削(1基)	全額
		昭和47年	農地開発・整備促進 土地改良	全額
		昭和55年	農地開発・整備促進 塩害対策用機械(パワーショベル)	購入費等
		昭和59年	農地開発・整備促進 (トレンチャー)	全額
生活環境整備	道路対策	昭和61～62年	農地開発・整備促進 塩害対策用機械(トレンチャー)	全額
		昭和41年	地域外道路アスファルト改修に伴う公課分担	
		昭和63年	域内道路補修工事	全額
		昭和42年		除雪工事
		昭和51年	有線電話	全額
		平成6年	有線電話から無線電話への交換	
医療衛生環境整備	診療施設・設備	昭和38～49年	宿舎1棟	
		昭和40～平成5年	本邦・現地医師派遣、運営費・看護婦給与助成	
		昭和49年	スクールバス1台	
教育環境整備	移住地内教育施設・設備			

移住地略図



エスペランサ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州モレーノ郡 Lugar Moreno, Partido Moreno, Pcia. Buenos Aires		
面積	全移住地面積 37ha. 1区画平均 2ha.		
沿革	<p>戦後移住した花卉青年等を対象に、その独立援護の一環として 10～15戸（小移住地）の独立用地を事業団が概ねブエノス・アイレス市近郊 50km内外に一括購入して、雇用契約満了後の青年に予約分譲方式によって分筆分譲してきたものである。</p> <p>独立用地は当事業団ならびに独立希望者、亜拓の協力を得て選定を行ない、現在までに 140 所の小移住地を設定している。当移住地は、その第 1 番目の小移住地で、1967 年から入植が開始された。</p>		
自然環境	地形	全体として南東に向かって緩やかな傾斜をなす。 平坦地、標高 29～30m。	
	地質・土壌	いくぶん粘土性のある黒色土、表土の深さ 35～50cm。 排水性良好、地力がありカーネーション栽培に良。 地味は極めて肥沃である。	
	植生・林相	牧草原野の一部で、樹木の自然植生はほとんど見られない。	
	気候	1～2月頃が最も暑く、年間平均気温 22.4℃。6～7月が最も寒く、最低平均気温 9.5℃、 平均年間降雨量 850 mm。	
社会環境	最寄都市（1） （該当するもの■）	名称：ホセ・セ・バス市 距離：10km（うち未舗装 km）交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：30分 人口：約 10万人	
	最寄都市（2） （該当するもの■）	名称：ロドリゲス市 距離：5km（うち未舗装 km）交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：15分 人口：約 25万人	
	大都市 （該当するもの■）	名称：ブエノス・アイレス市 距離：45km（うち未舗装 km）交通手段：■鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：1時間 20分 人口：1,259万人（首都圏）	
	行政インフラ	役所（ホセ・セ・バス市） 警察（モレーノ市）	公証人役場（ホセ・セ・バス市） 交通警察（モレーノ市）

社 会 環 境	行政インフラ	郵便局 (ホセ・セ・パス市) 電話局 (モレーノ市)
	社会インフラ (該当するもの■)	<p>[公共施設] <input type="checkbox"/>公民館 <input type="checkbox"/>体育館 <input type="checkbox"/>運動場 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[教育] <input type="checkbox"/>保育園 <input type="checkbox"/>幼稚園 <input type="checkbox"/>小 <input type="checkbox"/>中 <input type="checkbox"/>高 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[日本語校] 教師数 人、生徒数 人、教室 (<input type="checkbox"/>専用 <input type="checkbox"/>共用 <input type="checkbox"/>個人宅) 教室数 室、学級 (<input type="checkbox"/>単式 <input type="checkbox"/>複式)</p> <p>[保健・医療] <input type="checkbox"/>保健所 <input type="checkbox"/>診療所 <input type="checkbox"/>病院 <input type="checkbox"/>薬局 <input type="checkbox"/>検査所 ・医師：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・看護婦：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・その他 ()</p> <p>[警察] <input type="checkbox"/>派出所 <input type="checkbox"/>定期巡回 <input type="checkbox"/>不定期 <input type="checkbox"/>その都度</p>
	産業インフラ (該当するもの■)	<p>[農業用水] <input type="checkbox"/>公営灌漑用水 <input type="checkbox"/>域内灌漑用水 <input type="checkbox"/>河川水 <input type="checkbox"/>地下水 <input type="checkbox"/>溜池 <input type="checkbox"/>天水</p>
入 植 者 状 況	生活インフラ (該当するもの■)	<p>[移住地内幹線道路] <input type="checkbox"/>舗装 ■一部舗装 <input type="checkbox"/>砂利舗装 <input type="checkbox"/>盛土道路 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[電気] ■全戸電化 <input type="checkbox"/>一部電化 <input type="checkbox"/>自家発電 <input type="checkbox"/>なし</p> <p>[水道] <input type="checkbox"/>水道 ■井戸水 <input type="checkbox"/>雨水 <input type="checkbox"/>市販水 (水質： ■飲用可 <input type="checkbox"/>要煮沸 <input type="checkbox"/>飲用不可)</p> <p>[電話] ■普通電話 <input type="checkbox"/>携帯電話 <input type="checkbox"/>公衆電話 <input type="checkbox"/>なし</p>
	入植者戸数	直接入植者戸数 13戸 (うち非居住者 戸) 現地入植者戸数 (日系人) 13戸 (うち非居住者 戸) (非日系人) 戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者
農 業 現 況	日系人入植者	農業専業 13戸
	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積 (単位：ha)
	花卉	カーネーション 3 ha、菊 2 ha、鉢物 13ha

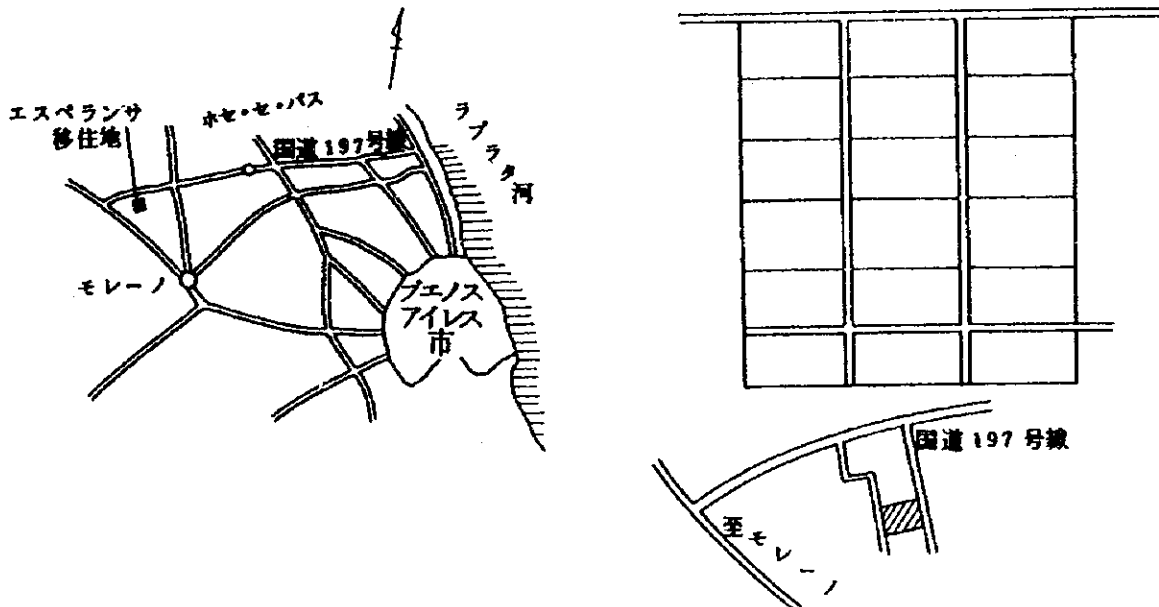
その他	主生産物販売 取扱機関	農業協同組合、生産農家自身（小売）
	金融機関	事業団、民間銀行

エスペランサ移住地向け事業団支援事業

事業名	項目	事業年度	事業内容	助成率
生活環境整備	治安対策	平成4年	無線機1基	

この他に、移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。

移住地略図



アルマ・フエルテ移住地

所在地	プレシデンテ・ペロン郡 Partido Presidente Peron, Pcia. Buenos Aires	
面積	全移住地面積 38ha. 1区画平均 2.5ha.	
沿革	エスペランサ移住地と同様の目的・経緯で設定された第2号移住地である。 ・1972年 4月 30日 ブルサコ日本語学園アルマフエルテ分校開校 (秋山氏園内) ・1977年 3月 電気工事完了 ・1979年 4月 ブルサコ日本語学園より独立し、アルマフエルテ日本語学校開校(西村氏園) ・1981年 11月 ゲルニカ電話組合に加入、毎月分担金支払開始 ・1992年 4月 アルマフエルテ日本語学校開校式 ・1993年 1月 電話架設される ・1993年 2月 防犯用無線機設置 ・1996年 7月 道路改修工事終了	
自然環境	地形	全体に西に向かって緩やかな斜面をなす平坦地である。標高 27～30m。
	地質・土壌	表土は粘土性のある黒色土で、有機質に富み肥沃である。表土の深さは平均 40cm あり、花卉栽培に適している。
	植生・林相	牧草原野、自然生育の樹木は多少あり (タラの木、エスピージョ、リグストロ等)
	気候	乾期、雨期の区別が明確でない。1～2月頃が最も暑く、年間平均気温 28.4℃、6～7月が最も寒く、最低平均気温 6.0℃。 平均年間降雨量 980mm。
社会環境	最寄都市 (1) (該当するもの■)	名称：グレウ市 距離：3km (うち未舗装 0.3km) 交通手段：□鉄道■定期バス ■自家用車 所要時間：10分 人口：約 万人
	最寄都市 (2) (該当するもの■)	名称：ゲルニカ市 距離：3km (うち未舗装 1km) 交通手段：□鉄道■定期バス ■自家用車 所要時間：20分 人口：約 万人
	大都市 (該当するもの■)	名称：ブエノス・アイレス市 距離：40km (うち未舗装 0.3km) 交通手段：■鉄道□定期バス □不定期バス 所要時間：45分 人口：1,259万人 (首都圏)

社 会 環 境	行政インフラ	役 所 (ゲルニカ市) 公証人役場 (ゲルニカ市) 警 察 (ゲルニカ市) 交 通 警 察 () 郵便局 (ゲルニカ市) 電 話 局 (ゲルニカ市)
	社会インフラ (該当するもの■)	<p>[公共施設] <input type="checkbox"/>公民館 <input type="checkbox"/>体育館 <input type="checkbox"/>運動場 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[教育] <input type="checkbox"/>保育園 <input type="checkbox"/>幼稚園 <input type="checkbox"/>小 <input type="checkbox"/>中 <input type="checkbox"/>高 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[日語校] 教師数 人、生徒数 人、教室 (<input type="checkbox"/>専用 <input type="checkbox"/>共用 <input type="checkbox"/>個人宅) 教室数 室、学級 (<input type="checkbox"/>単式 <input type="checkbox"/>複式)</p> <p>[保健・医療] <input type="checkbox"/>保健所 <input type="checkbox"/>診療所 <input type="checkbox"/>病院 <input type="checkbox"/>薬局 <input type="checkbox"/>検査所 ・医 師：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・看護婦：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・その他 ()</p> <p>[警察] <input type="checkbox"/>派出所 <input type="checkbox"/>定期巡回 <input type="checkbox"/>不定期 <input type="checkbox"/>その都度</p>
	産業インフラ (該当するもの■)	<p>[農業用水] <input type="checkbox"/>公営灌漑用水 <input type="checkbox"/>域内灌漑用水 <input type="checkbox"/>河川水 ■地下水 <input type="checkbox"/>溜池 <input type="checkbox"/>天水</p>
	生活インフラ (該当するもの■)	<p>[移住地内幹線道路] <input type="checkbox"/>舗装 <input type="checkbox"/>一部舗装 <input type="checkbox"/>砂利舗装 <input type="checkbox"/>盛土道路 ■その他 (石灰岩)</p> <p>[電気] ■全戸電化 <input type="checkbox"/>一部電化 <input type="checkbox"/>自家発電 <input type="checkbox"/>なし</p> <p>[飲料水] <input type="checkbox"/>水道 ■井戸水 <input type="checkbox"/>雨水 <input type="checkbox"/>市販水 (水質： ■飲用可 <input type="checkbox"/>要煮沸 <input type="checkbox"/>飲用不可)</p> <p>[電話] ■普通電話 <input type="checkbox"/>携帯電話 <input type="checkbox"/>公衆電話 <input type="checkbox"/>なし</p>
入 植 者 状 況	入 植 者 戸 数	直接入植者戸数 15戸 (うち非居住者4戸) 現地入植者戸数 (日系人) 1戸 (うち非居住者1戸) (非日系人) 戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者
	日 系 人 入 植 者	農業専業 8戸 農業兼業：(商業) 1戸 修理業：1戸、 商業：2戸、 サービス業：1戸

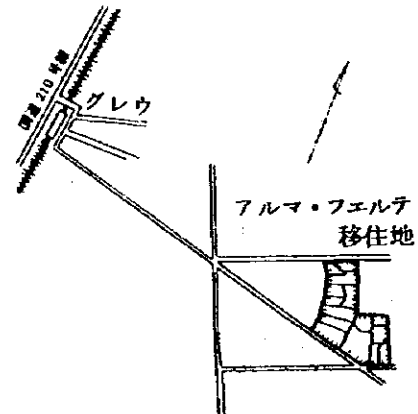
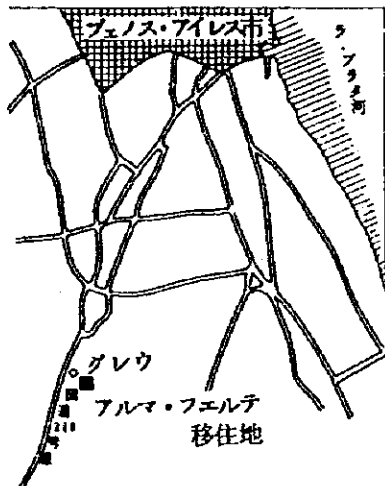
農業現況	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積(単位:ha)
	花卉	カーネーション0.48ha、菊0.1ha、鉢物0.43ha、フリージア0.05ha
その他	金融機関	事業団、公営銀行

アルマ・フェルテ移住地向け事業団支援事業

事業名	項目	事業年度	事業内容	助成率
生活環境整備	道路対策	平成7年	域内道路補修工事	2/3
	治安対策	平成4年	無線機1基	

この他に、移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。

移住地略図



ローマ・ベルデ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州エスコバル郡 Colonia Loma Verde, Departamento Belen de Escobar, Pcia. Buenos Aires	
面積	全移住地面積42ha. 1区画平均2.8ha.	
沿革	エスペランサ移住地と同様の目的・経緯で設立された第3号移住地である。 人植開始は1969年からである。	
自然環境	地形	平坦地で標高約30m程度、緩やかな傾斜が西に流れている。
	地質・土壌	沖積土地帯であり、表土は粘土質の黒色土で有機質に富み肥沃である。表土の深さは平均40cm程度で花卉栽培に適している。
	植生・林相	牧草原野
	気候	乾期、雨期の区別が明確でない。1～2月頃が最も暑く、最高平均気温29.8℃。 年間平均気温15.9℃。 平均年間降雨量855mm。
社会環境	最寄都市(1) (該当するもの■)	名称：ローマ・ベルデ市 距離：3km (うち未舗装 km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：10分 人口：約0.5万人
	最寄都市(2) (該当するもの■)	名称：エスコバル市 距離：10km (うち未舗装 km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：20分 人口：約5万人
	大都市 (該当するもの■)	名称：ブエノス・アイレス市 距離：60km (うち未舗装 km) 交通手段：■鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：1時間 分 人口：1,259万人 (首都圏)
	行政インフラ	役所 (エスコバル市) 公証人役場 (エスコバル市) 警察 (エスコバル市) 交通警察 (エスコバル分署) 郵便局 (エスコバル市) 電話局 (テレコン・エスコバル支局)

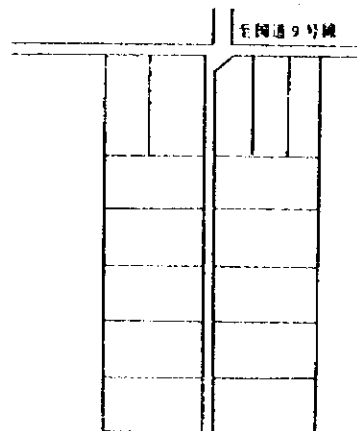
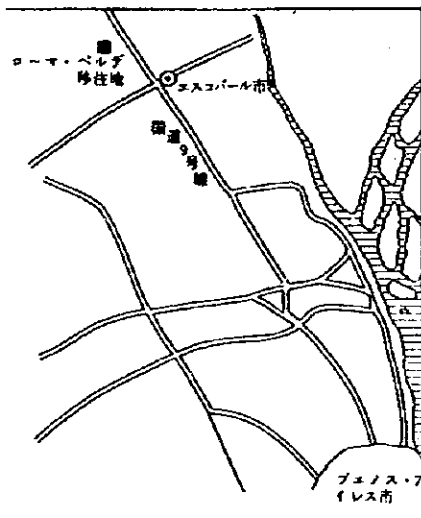
社 会 環 境	社会インフラ (該当するもの■)	<p>[公共施設] <input type="checkbox"/>公民館 <input type="checkbox"/>体育館 <input type="checkbox"/>運動場 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[教育] <input type="checkbox"/>保育園 <input type="checkbox"/>幼稚園 <input type="checkbox"/>小 <input type="checkbox"/>中 <input type="checkbox"/>高 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[日語校] 教師数 人、生徒数 人、教室 (<input type="checkbox"/>専用 <input type="checkbox"/>共用 <input type="checkbox"/>個人宅) 教室数 室、学級 (<input type="checkbox"/>単式 <input type="checkbox"/>複式)</p> <p>[保健・医療] <input type="checkbox"/>保健所 <input type="checkbox"/>診療所 <input type="checkbox"/>病院 <input type="checkbox"/>薬局 <input type="checkbox"/>検査所 ・医師：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・看護婦：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・その他 ()</p> <p>[警察] <input type="checkbox"/>派出所 <input type="checkbox"/>定期巡回 <input type="checkbox"/>不定期 <input type="checkbox"/>その都度</p>
	産業インフラ (該当するもの■)	<p>[農業用水] <input type="checkbox"/>公営灌漑用水 <input type="checkbox"/>域内灌漑用水 <input type="checkbox"/>河川水 <input type="checkbox"/>地下水 <input type="checkbox"/>溜池 <input type="checkbox"/>天水</p>
	生活インフラ (該当するもの■)	<p>[移住地内幹線道路] ■舗装 <input type="checkbox"/>一部舗装 <input type="checkbox"/>砂利舗装 <input type="checkbox"/>盛土道路 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[電気] ■全戸電化 <input type="checkbox"/>一部電化 <input type="checkbox"/>自家発電 <input type="checkbox"/>なし</p> <p>[飲料水] <input type="checkbox"/>水道 ■井戸水 <input type="checkbox"/>雨水 <input type="checkbox"/>市販水 (水質： ■飲用可 <input type="checkbox"/>要煮沸 <input type="checkbox"/>飲用不可)</p> <p>[電話] ■普通電話 <input type="checkbox"/>携帯電話 <input type="checkbox"/>公衆電話 <input type="checkbox"/>なし</p>
入 植 者 状 況	入植者戸数	直接入植者戸数 戸 (うち非居住者 戸) 現地入植者戸数 (日系人) 15戸 (うち非居住者 戸) (非日系人) 戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者
	日系人入植者	農業専業 戸
農 業 現 況	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積 (単位：ha)
	花卉	バラ、菊、蘭、観葉植物、鉢物
そ の 他	主生産物販売 取扱機関	農業協同組合、生産農家自身 (卸売市場)、生産農家自身 (小売)
	金融機関	事業団、民間銀行

ローマ・ヴェルデ移住地向け事業団支援事業

事業名	項目	事業年度	事業内容	助成率
生活環境整備	道路対策	平成2年	域内道路補修工事	2/3
	治安対策	平成4年	無線機1基	2/3

この他に、移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。

移住地略図



マルコス・パス移住地

所在地	ブエノス・アイレス州マルコス・パス郡 Marcos Paz, Pcia. Buenos Aires	
面積	全移住地面積 37ha. 1 区画平均 2.9ha.	
沿革	エスペランサ移住地と同様の経緯・目的で設立された第 4 号移住地である。 1970 年より入植が開始された。	
自然環境	地形	東西に約 1,270m、南北に約 1,240m、地形は緩やかな傾斜が西より流れている。標高平均 30m。
	地質・土壌	沖積土地帯であり、表土は黒色の砂壤土で有機質に富み肥沃である。黒色表土の深さは約 30cm であるが、それ以下 50 cm 程度まで褐色砂壤土であり、花卉栽培に適している。
	植生・林相	樹木の植性は 1 本も見られない。
	気候	1～2 月頃が最も暑く、最高平均気温 30.1℃。6～7 月頃が最も寒く、最低平均気温 4.5℃。 平均年間降雨量 938 mm。
社会環境	最寄都市 (1) (該当するもの■)	名称：マルコス・パス市 距離：4km (うち未舗装 2km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道 <input type="checkbox"/> 定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：10分 人口：約 2 万人
	最寄都市 (2) (該当するもの■)	名称：メルロ市 距離：20km (うち未舗装 2km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：30分 人口：約 10 万人
	大都市 (該当するもの■)	名称：ブエノス・アイレス市 距離：50km (うち未舗装 2km) 交通手段：■鉄道 <input type="checkbox"/> 定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：1 時間 30 分 人口：1,259 万人 (首都圏)
	行政インフラ	役所 (マルコス・パス市) 公証人役場 (マルコス・パス市) 警察 (マルコス・パス市) 交通警察 (マルコス・パス市) 郵便局 (マルコス・パス市) 電話局 (メルロ市)

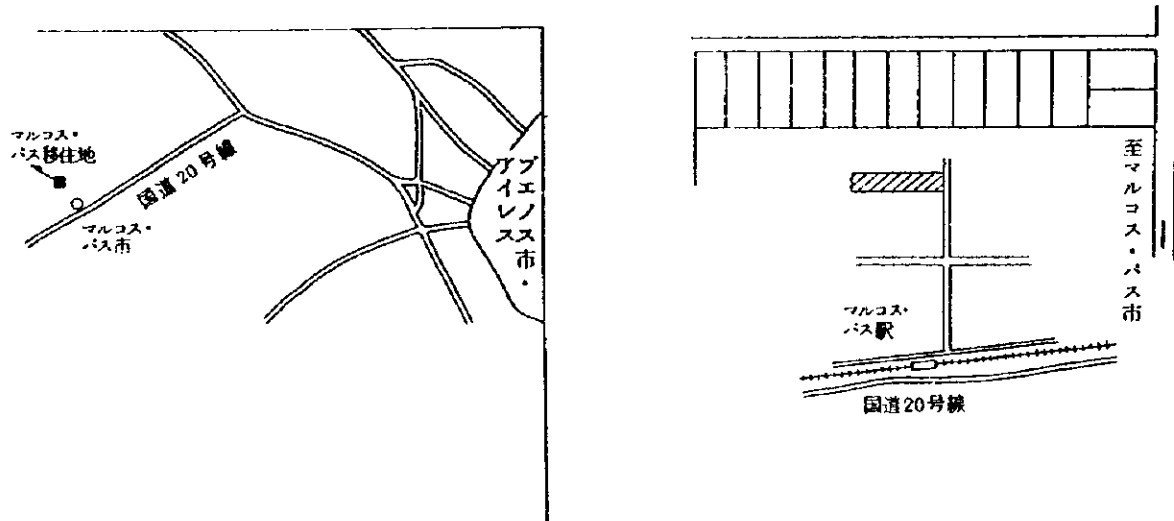
社 会 環 境	社会インフラ (該当するもの■)	<p>[公共施設] <input type="checkbox"/>公民館 <input type="checkbox"/>体育館 <input type="checkbox"/>運動場 <input type="checkbox"/>その他()</p> <p>[教育] <input type="checkbox"/>保育園 <input type="checkbox"/>幼稚園 <input type="checkbox"/>小 <input type="checkbox"/>中 <input type="checkbox"/>高 <input type="checkbox"/>その他()</p> <p>[日語校] 教師数 人、生徒数 人、教室(<input type="checkbox"/>専用 <input type="checkbox"/>共用 <input type="checkbox"/>個人宅) 教室数 室、学級(<input type="checkbox"/>単式 <input type="checkbox"/>複式)</p> <p>[保健・医療] <input type="checkbox"/>保健所 <input type="checkbox"/>診療所 <input type="checkbox"/>病院 <input type="checkbox"/>薬局 <input type="checkbox"/>検査所 ・医師：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・看護婦：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・その他()</p> <p>[警察] <input type="checkbox"/>派出所 <input type="checkbox"/>定期巡回 <input type="checkbox"/>不定期 <input type="checkbox"/>その都度</p>
	産業インフラ (該当するもの■)	<p>[農業用水] <input type="checkbox"/>公営灌漑用水 <input type="checkbox"/>域内灌漑用水 <input type="checkbox"/>河川水 ■地下水 <input type="checkbox"/>溜池 <input type="checkbox"/>天水</p>
	生活インフラ (該当するもの■)	<p>[移住地内幹線道路] ■舗装 <input type="checkbox"/>一部舗装 <input type="checkbox"/>砂利舗装 <input type="checkbox"/>盛土道路 <input type="checkbox"/>その他()</p> <p>[電気] ■全戸電化 <input type="checkbox"/>一部電化 <input type="checkbox"/>自家発電 <input type="checkbox"/>なし</p> <p>[飲料水] <input type="checkbox"/>水道 ■井戸水 <input type="checkbox"/>雨水 <input type="checkbox"/>市販水 (水質： ■飲用可 <input type="checkbox"/>要煮沸 <input type="checkbox"/>飲用不可)</p> <p>[電話] ■普通電話 <input type="checkbox"/>携帯電話 <input type="checkbox"/>公衆電話 <input type="checkbox"/>なし</p>
入 植 者 状 況	入植者戸数	直接入植者戸数 戸(うち非居住者 戸) 現地入植者戸数 (日系人) 13戸(うち非居住者3戸) (非日系人) 戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者
	日系人入植者	農業専業 9戸 農業兼業(商業) 1戸
農 業 現 況	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積(単位:ha)
	花 卉	バラ0.287ha、カーネーション0.168ha、鉢物0.3775ha
そ の 他	主生産物販売 取扱機関	農業協同組合、生産農家自身(小売)
	金 融 機 関	事業団

マルコス・パス移住地向け事業団支援事業

事業名	項目	事業年度	事業内容	助成率
農業基盤整備	本邦農業専門家派遣事業	昭和50～平成5年		
生活環境整備	道路対策	平成2年	域内道路補修工事	全額
	治安対策	平成4年	無線機1基	2/3
	公民館建設	昭和60年		2/3

この他に、移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。

移住地略図



エル・パット移住地

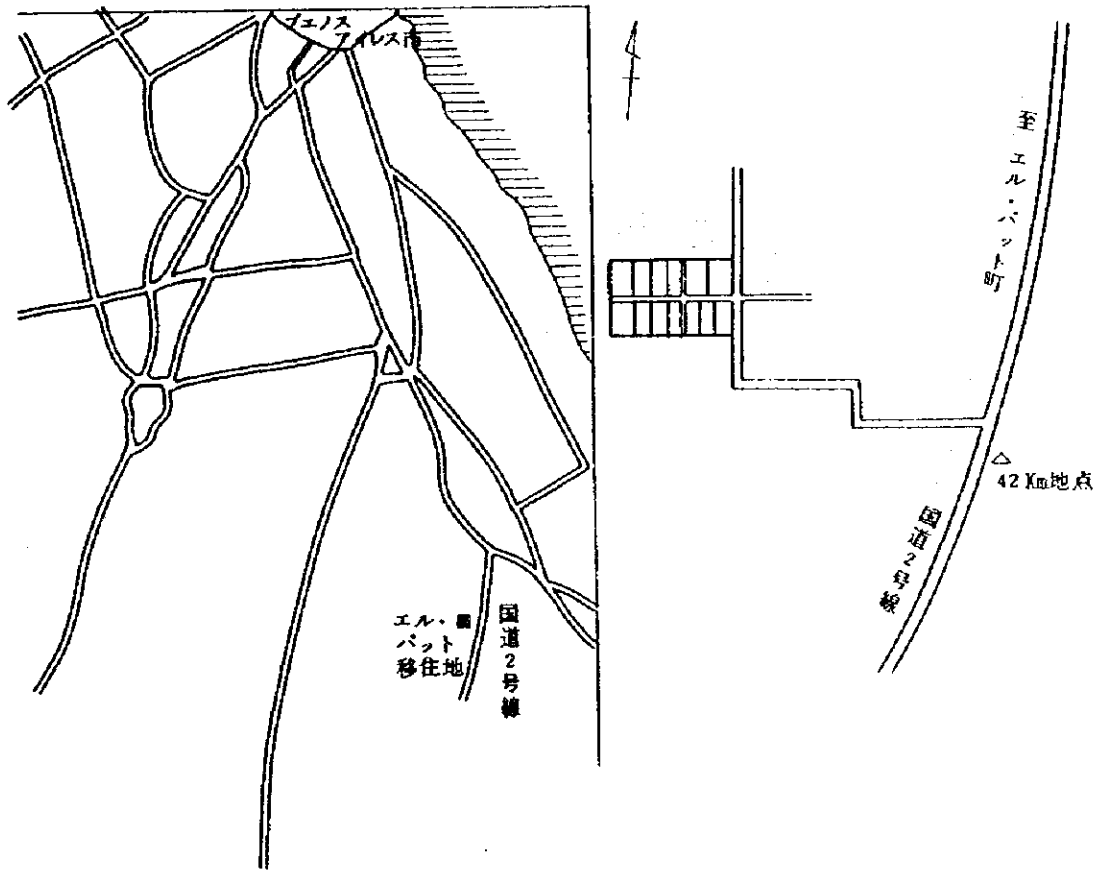
所在地	ブエノス・アイレス州ベラサテギ郡 Ruta Nacional, Partido de Berazategui, Pcia. Buenos Aires	
面積	全移住地面積 37ha. 1区画平均 2.6ha.	
沿革	エスペランサ移住地と同様の経緯・目的で設立された第5号の移住地である。	
自然環境	地形	全体的に見て、やや波状形の平坦地で南方に向かって緩やかに傾斜している。標高平均 28m。
	地質・土壌	沖積土地帯であり、表土は若干粘土性のある黒色壤土で、有機質に富み極めて肥沃である。表土の深さは平均 40cm、50cm 以下は良質の粘土性を帯びた黒色土で花卉栽培に適している。
	植生・林相	樹木の植生は見られない。
	気候	1～2月頃が最も暑く、最高平均気温 28.4℃。 6～7月頃が最も寒く、最低平均気温 6.0℃。 平均年間降雨量 893 mm。
社会環境	最寄都市(1) (該当するもの■)	名称：エル・パット市 距離：4km (うち未舗装 2km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道 <input checked="" type="checkbox"/> 定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：15分 人口：約1万人
	最寄都市(2) (該当するもの■)	名称：ベラサテギ市 距離：20km (うち未舗装 2km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道 <input checked="" type="checkbox"/> 定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：30分 人口：約5万人
	大都市 (該当するもの■)	名称：ブエノス・アイレス市 距離：40km (うち未舗装 2km) 交通手段： <input checked="" type="checkbox"/> 鉄道 <input checked="" type="checkbox"/> 定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：1時間30分 人口：1,259万人 (首都圏)
	行政インフラ	役所 (ベラサテギ市) 公証人役場 (エル・パット市) 警察 (エル・パット市) 交通警察 (グティエーレス・ロータリ) 郵便局 (エル・パット市) 電話局 (エル・パット市)
	社会インフラ (該当するもの■)	【公共施設】 <input type="checkbox"/> 公民館 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他 () 【教育】 <input type="checkbox"/> 保育園 <input type="checkbox"/> 幼稚園 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> その他 ()

社 会 環 境	産業インフラ (該当するもの■)	<p>[日語校] 教師数 人、生徒数 人、教室 (□専用 □共用 □個人宅) 教室数 室、学級 (□単式 □複式)</p> <p>[保健・医療] □保健所 □診療所 □病院 □薬局 □検査所 ・医師：□常勤 □非常勤 ・看護婦：□常勤 □非常勤 ・その他 ()</p> <p>[警察] □派出所 □定期巡回 □不定期 □その都度</p>
	産業インフラ (該当するもの■)	<p>[農業用水] □公営灌漑用水 □域内灌漑用水 □河川水 □地下水 □溜池 □天水</p>
	生活インフラ (該当するもの■)	<p>[移住地内幹線道路] □舗装 □一部舗装 □砂利舗装 ■盛土道路 □その他()</p> <p>[電気] ■全戸電化 □一部電化 □自家発電 □なし</p> <p>[飲料水] □水道 ■井戸水 □雨水 □市販水 (水質： ■飲用可 □要煮沸 □飲用不可)</p> <p>[電話] ■普通電話 ■携帯電話 □公衆電話 □なし</p>
入 植 者 状 況	入植者戸数	<p>直接入植者戸数 戸 (うち非居住者 戸) 現地入植者戸数 (日系人) 13戸 (うち非居住者7戸) (非日系人) 0戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者</p>
	日系人入植者	農業専業 4戸
農 業 現 況	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積 (単位：ha)
	果 樹	柑橘類 1 ha
	花 卉	バラ 0.864ha
そ の 他	主生産物販売 取扱機関	農業協同組合、スーパー等小売業者
	金 融 機 関	事業団、農業協同組合

支援事業

移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。

移住地略図



セラージャ移住地

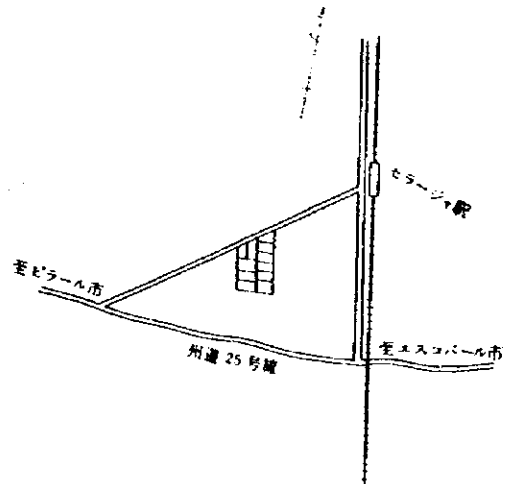
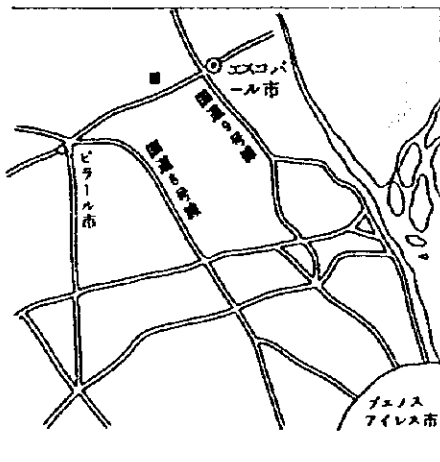
所在地	ブエノス・アイレス州ピラール郡 Barrio Zelaya, Partido de Pilar, Pcia. Buenos Aires	
面積	全移住地面積 30ha. 1区画平均 2.7ha.	
沿革	エスペランサ移住地と同様の経緯・目的で設立された第6号の移住地で、入植開始は1972年である。	
自然環境	地形	全体にやや平坦な地で南方に向かって緩やかに傾斜している。
	地質・土壌	沖積土地帯で、表土は若干粘土性のある黒色壤土で有機質含有量は普通である。 表土の深さは18～28mで、下層は黒色粘土層である。
	植生・林相	一部に(0.2～0.3ha)ユーカリがあり、放牧中の牛の日焼け除けに利用されている他は全面原生草地である。
	気候	1～2月頃が最も暑く、最高気温29.8℃。 6～7月頃が最も寒く、最低気温8.9℃。 平均年間降雨量855mm。
社会環境	最寄都市(1) (該当するもの■)	名称：ベレン・デ・エスコバル市 距離：12km(うち未舗装1.5km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：30分 人口：約19万人
	最寄都市(2) (該当するもの■)	名称：ピラール市 距離：14km(うち未舗装1.5km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：40分 人口：約27万人
	大都市 (該当するもの■)	名称：ブエノス・アイレス市 距離：62km(うち未舗装1.5km) 交通手段：■鉄道 <input type="checkbox"/> 定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：2時間 人口：約1,259万人(首都圏)
	行政インフラ	役所(ピラール市) 公証人役場(ピラール市) 警察(ビジャ・ローサ市) 交通警察() 郵便局(セラージャ市) 電話局(ベレン・デ・エスコバル市)
	社会インフラ (該当するもの■)	[公共施設] <input type="checkbox"/> 公民館 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他() [教育] <input type="checkbox"/> 保育園 <input type="checkbox"/> 幼稚園 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> その他()

社 会 環 境	社会インフラ (該当するもの■)	<p>[日本語校] 教師数 人、生徒数 人、教室 (□専用 □共用 □個人宅) 教室数 室、学級 (□単式 □複式)</p> <p>[保健・医療] □保健所 □診療所 □病院 □薬局 □検査所 ・医師：□常勤 □非常勤 ・看護婦：□常勤 □非常勤 ・その他 ()</p> <p>[警察] □派出所 □定期巡回 □不定期 □その都度</p>
	産業インフラ (該当するもの■)	<p>[農業用水] □公営灌漑用水 □域内灌漑用水 □河川水 ■地下水 □溜池 □天水</p>
	生活インフラ (該当するもの■)	<p>[移住地内幹線道路] □舗装 □一部舗装 □砂利舗装 ■盛土道路 □その他()</p> <p>[電気] ■全戸電化 □一部電化 □自家発電 □なし</p> <p>[飲料水] □水道 ■井戸水 □雨水 □市販水 (水質： ■飲用可 □要煮沸 □飲用不可)</p> <p>[電話] ■普通電話 ■携帯電話 □公衆電話 □なし</p>
入 植 者 状 況	入植者戸数	<p>直接入植者戸数 戸 (うち非居住者 戸) 現地入植者戸数 (日系人) 11戸 (うち非居住者 戸) (非日系人) 戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者</p>
	日系人入植者	農業専業 11戸
農 業 現 況	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積 (単位：ha)
	花卉	バラ 2ha、カーネーション 0.5ha、菊 1ha、蘭 0.5ha、観葉植物 1ha、鉢物 3ha、その他 1ha
そ の 他	主生産物販売 取扱機関	
	金融機関	事業団

支援事業

移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。

移住地略図



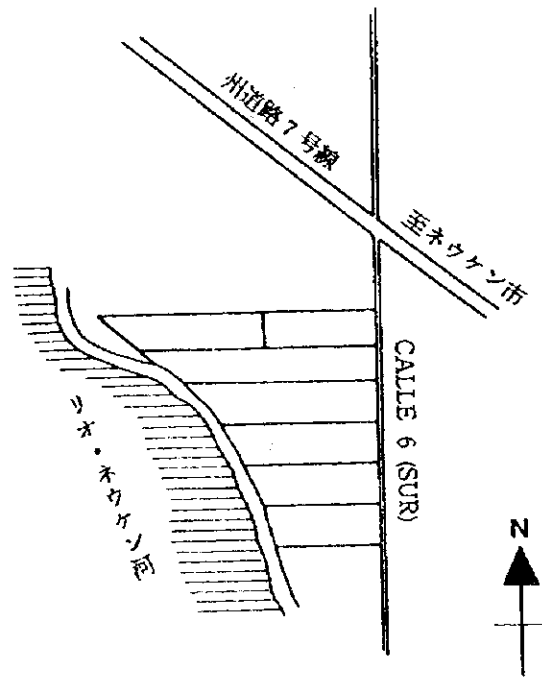
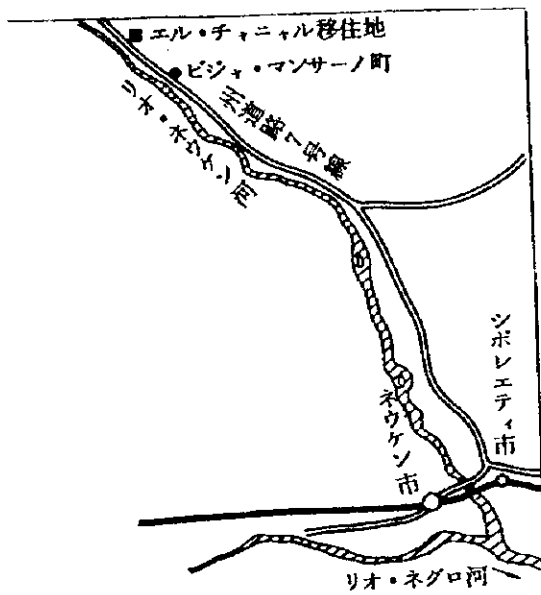
エル・チャニヤール移住地

所在地	ネウケン州アニエーロ郡 Departamento Añelo, Provincia del Neuquen		
面積	全移住地面積 76ha. 1区画平均 10.857ha.		
沿革	これまでの小移住地設定については、花卉市場の将来性に対する懸念あるいは花卉栽培のみならず、果樹栽培への希望もあって、エル・チャニヤール移住地は、ブエノス・アイレス近郊から離れてネウケン州にリンゴを中心として果樹栽培のための第7号の移住地を設定した。 入植開始は1973年からである。		
自然環境	地形	ネウケン河、河床地帯にて耕作可能、河岸巾（河の北側）約4.5kmの台地の距離約80kmの平坦地であり、標高約280mである。	
	地質・土壌	ネウケン河の沖積土壌であり、砂質埴壤土ないし砂質壤土とみられる。色状は灰褐色を示し、垂直分布は約2～3mであり下方は礫質である。但し河岸に近いロッセ中には礫の混合している所もある。	
	植生・林相	ハリーヤ、ピーキリン、チャニヤール、サンバア等乾燥地特有の灌木がみられる。高さ1m程度、また植林以外は自然発生の森林はない。	
	気候	1～2月が最も暑く、最高平均気温22.5℃。 6～7月が最も寒く、最低平均気温6.9℃。 年間平均降雨量209mm。	
社会環境	最寄都市（1） （該当するもの■）	名称：サン・バトリシオ・デル・チャニヤール町 距離：2km（うち未舗装1km） 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道 <input type="checkbox"/> 定期バス <input checked="" type="checkbox"/> 自家用車 所要時間：5分 人口：約0.45万人	
	最寄都市（2） （該当するもの■）	名称：市 距離： km（うち未舗装 km） 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道 <input checked="" type="checkbox"/> 定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間： 時間 分 人口：約 万人	
	大都市 （該当するもの■）	名称：ネウケン市 距離：50km（うち未舗装1km） 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道 <input checked="" type="checkbox"/> 定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：2時間0分 人口：約20万人	
	行政インフラ	役所（チャニヤール町） 警察（チャニヤール町） 郵便局（チャニヤール町）	公証人役場（チャニヤール町） 交通警察（チャニヤール町） 電話局（チャニヤール町）

社 会 環 境	社会インフラ (該当するもの■)	<p>【公共施設】 <input type="checkbox"/>公民館 <input type="checkbox"/>体育館 <input type="checkbox"/>運動場 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>【教育】 <input type="checkbox"/>保育園 <input type="checkbox"/>幼稚園 <input type="checkbox"/>小 <input type="checkbox"/>中 <input type="checkbox"/>高 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>【日語校】 教師数 人、生徒数 人、教室 (<input type="checkbox"/>専用 <input type="checkbox"/>共用 <input type="checkbox"/>個人宅) 教室数 室、学級 (<input type="checkbox"/>単式 <input type="checkbox"/>複式)</p> <p>【保健・医療】 <input type="checkbox"/>保健所 <input type="checkbox"/>診療所 <input type="checkbox"/>病院 <input type="checkbox"/>薬局 <input type="checkbox"/>検査所 ・医師：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・看護婦：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・その他 ()</p> <p>【警察】 <input type="checkbox"/>派出所 <input type="checkbox"/>定期巡回 <input type="checkbox"/>不定期 <input type="checkbox"/>その都度</p>
	産業インフラ (該当するもの■)	<p>【農業用水】 <input type="checkbox"/>公営灌漑用水 ■域内灌漑用水 <input type="checkbox"/>河川水 <input type="checkbox"/>地下水 <input type="checkbox"/>溜池 <input type="checkbox"/>天水</p>
	生活インフラ (該当するもの■)	<p>【移住地内幹線道路】 <input type="checkbox"/>舗装 <input type="checkbox"/>一部舗装 ■砂利舗装 <input type="checkbox"/>盛土道路 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>【電気】 ■全戸電化 <input type="checkbox"/>一部電化 <input type="checkbox"/>自家発電 <input type="checkbox"/>なし</p> <p>【飲料水】 <input type="checkbox"/>水道 ■井戸水 <input type="checkbox"/>雨水 <input type="checkbox"/>市販水 (水質： ■飲用可 <input type="checkbox"/>要煮沸 <input type="checkbox"/>飲用不可)</p> <p>【電話】 <input type="checkbox"/>普通電話 ■携帯電話 <input type="checkbox"/>公衆電話 <input type="checkbox"/>なし</p>
入 植 者 状 況	入植者戸数	直接入植者戸数 戸 (うち非居住者 戸) 現地入植者戸数 (日系人) 4戸 (うち非居住者1戸) (非日系人) 1戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者
	日系人入植者	農業専業 3戸 農業兼業：(商業) 1戸
農 業 現 況	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積 (単位：ha)
	果 樹	リンゴ14ha
そ の 他	主生産物販売 取扱機関	親戚・友人・知人等個人、商社等仲買業者

その他	金融機関	事業団、公営銀行
支援事業	移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。	

移住地略図



ラ・プラタ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州ラ・プラタ郡 Lugar El Peligro, Partido La Plata, Pcia. Buenos Aires	
面積	全移住地面積 120ha. 1区画平均 2ha.	
沿革	エスペランサ移住地と同様の経緯・目的で設立された第8号の移住地である。 入植開始は1975年からで、現在46戸が定住している。	
自然環境	地形	ウルキッサ移住地に隣接する肥沃な土地で全体的に西北西に向かって緩い傾斜があるが、ほぼ平坦地で標高 28m である。 全体的にほぼ平坦であるが、北東側と西南西側には排水溝を有し、余剰雨水及び花卉栽培用の必要水は十分である。
	地質・土壌	沖積土地帯で表土は黒色をし、相当の有機質に富み肥沃である。表土は 30～40cm を有し、それに続く下層は良質の粘土層となり花卉栽培に適した土地である。
	植生・林相	2年前までは乳牛飼育の放牧場として利用し、購入時までにはトウモロコシの耕作をしていた。
	気候	1～2月が最も暑く、最高平均気温 21.2℃。6～7月が最も寒く、最低平均気温 11.7℃。年平均気温 15.8℃。平均年間降雨量 1,076mm。5～9月の間に降霜 5～7回程度。
社会環境	最寄都市 (1) (該当するもの■)	名称：ロメーロ町 距離：15km (うち未舗装 3km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：20分 人口：約 1万人
	最寄都市 (2) (該当するもの■)	名称：アバスト町 距離：15km (うち未舗装 3km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：20分 人口：約 0.5万人
	大都市 (該当するもの■)	名称：ラ・プラタ市 距離：35km (うち未舗装 3km) 交通手段： <input type="checkbox"/> 鉄道■定期バス <input type="checkbox"/> 不定期バス 所要時間：1時間 分 人口：約 50万人
	行政インフラ	役所 (ロメーロ町) 公証人役場 () 警察 (アバスト町) 交通警察 () 郵便局 (ロメーロ町) 電話局 (エル・パット市)

社 会 環 境	社会インフラ (該当するもの■)	<p>[公共施設] <input checked="" type="checkbox"/>公民館 <input checked="" type="checkbox"/>体育館 <input checked="" type="checkbox"/>運動場 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[教育] <input type="checkbox"/>保育園 <input type="checkbox"/>幼稚園 <input type="checkbox"/>小 <input type="checkbox"/>中 <input type="checkbox"/>高 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[日語校] 教師数 人、生徒数 人、教室 (<input type="checkbox"/>専用 <input type="checkbox"/>共用 <input type="checkbox"/>個人宅) 教室数 室、学級 (<input type="checkbox"/>単式 <input type="checkbox"/>複式)</p> <p>[保健・医療] <input type="checkbox"/>保健所 <input type="checkbox"/>診療所 <input type="checkbox"/>病院 <input type="checkbox"/>薬局 <input type="checkbox"/>検査所 ・医師：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・看護婦：<input type="checkbox"/>常勤 <input type="checkbox"/>非常勤 ・その他 ()</p> <p>[警察] <input type="checkbox"/>派出所 <input type="checkbox"/>定期巡回 <input type="checkbox"/>不定期 <input type="checkbox"/>その都度</p>
	産業インフラ (該当するもの■)	<p>[農業用水] <input type="checkbox"/>公営灌漑用水 <input type="checkbox"/>域内灌漑用水 <input type="checkbox"/>河川水 <input checked="" type="checkbox"/>地下水 <input type="checkbox"/>溜池 <input type="checkbox"/>天水</p>
	生活インフラ (該当するもの■)	<p>[移住地内幹線道路] <input type="checkbox"/>舗装 <input type="checkbox"/>一部舗装 <input type="checkbox"/>砂利舗装 <input checked="" type="checkbox"/>盛土道路 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[電気] <input checked="" type="checkbox"/>全戸電化 <input type="checkbox"/>一部電化 <input type="checkbox"/>自家発電 <input type="checkbox"/>なし</p> <p>[飲料水] <input type="checkbox"/>水道 <input checked="" type="checkbox"/>井戸水 <input type="checkbox"/>雨水 <input type="checkbox"/>市販水 (水質：<input checked="" type="checkbox"/>飲用可 <input type="checkbox"/>要煮沸 <input type="checkbox"/>飲用不可)</p> <p>[電話] <input checked="" type="checkbox"/>普通電話 <input checked="" type="checkbox"/>携帯電話 <input checked="" type="checkbox"/>公衆電話 <input type="checkbox"/>なし</p>
入 植 者 状 況	入植者戸数	直接入植者戸数 戸 (うち非居住者 戸) 現地入植者戸数 (日系人) 47戸 (うち非居住者 13戸) (非日系人) 戸 *非居住者とは、農地を所有するも移住地外に居住する者
	日系人入植者	農業専業 47戸
農 業 現 況	主たる農業	1戸当たり耕作平均面積 (単位：ha)
	花卉	バラ0.03ha、カーネーション0.12ha、菊0.024ha、鉢物0.1ha、その他(ガーベラ、アストロメディア)0.2ha
	畜産	1戸当たりの平均飼養成頭羽数 乳牛500頭、その他(チンチージャ)

その他	主生産物販売 取扱機関	
	金融機関	事業団、公営銀行

ラ・プラタ移住地向け事業団支援事業

事業名	項目	事業年度	事業内容	助成率
農業基盤整備	本邦農業専門家派遣事業	昭和50～平成5年		
生活環境整備	電化対策	昭和52年		1/2
	公民館建設	昭和58年		2/3
教育環境整備	移住地内教育施設・設備	平成5～6年	日本語学校校舎	

この他に、移住者子弟・中堅移住者の本邦技術研修等の人材育成事業、営農普及・指導等の農業分野の支援事業、生活改善普及・指導等の生活環境整備事業、移住者子弟育英・日本語教師育成等の教育環境整備事業などにより支援を実施してきた。

移住地略図

